

---

---

## 報 告 事 項

---

---

令和2年度 公益社団法人千葉県看護協会事業計画及び収支予算について

令和2年度事業計画及び収支予算について理事会において承認されたので、報告する。

# 令和2年度 公益社団法人千葉県看護協会 事業計画について

## 【スローガン】

「看護の専門性と職能団体としての力を発揮し、県民の健康な生活を支えよう」

## 【重点項目・重点事業】

- 1 2025年を見据えた看護職の定着・確保の推進
- 2 質の高い看護の提供体制の構築・推進
- 3 地域包括ケアにおける看護提供体制の構築・推進

※項目は定款第4条の事業に基づき区分

項目	目的	事業	内容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
①教育研修等による看護の質の向上に関する事業	県民に安全で安心な医療・看護を提供するために、職能団体の責任において、専門職としての生涯教育を提供し、看護職の資質の向上を図る。	1.生涯教育	(1)生涯教育 (85 コース) 分類1：「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育 21 コース ・臨床現場で遭遇するアレルギー疾患の基礎知識 ・【JNA 収録 DVD 研修】医療安全管理者養成研修【診療報酬加算対応】 ・【JNA オンデマンド活用研修】准看護師のためのスキルアップ研修 ～誤嚥性肺炎を予防する食事介助～ ・看護職を対象とする禁煙支援研修 ～動機付け面接法の理解～ ・医療から在宅へのバトンタッチ ・スキンケア研修 ・基礎英語力向上研修 他 分類2：JNA ラダーと連動した継続教育 48 コース ①ニーズをとらえる力 ・フィジカルアセスメントの基本を学ぼう① 検査データの読み方・活かし方 ・フィジカルアセスメントの基本を学ぼう② 意識障害のアセスメント ・フィジカルアセスメントの基本を学ぼう③ 呼吸のアセスメント ・フィジカルアセスメントの基本を学ぼう④ 循環のアセスメント ・フィジカルアセスメントの基本を学ぼう⑤ 腹部症状のアセスメント 他 ②ケアする力 ・地域における看取りを考える～在宅・介護施設における看取り～ ・心電図から読み解く病態と看護実践 他 ③協働する力 ・共に考えよう!2年目として「やりがいのある働き方」 ・リーダーを始める人のための コーチング ・医療安全基礎～医療事故事例を法律から見てみる～ 他 ④意思決定する力 ・患者を守り・自分を守る看護倫理の基礎 他 ⑤看護共通 ・自己の成長を促すナラティブ・アプローチ ・周手術期の看護 ～麻酔の機序と術後ケア～ ・基礎から学ぶ臨床推論～看護の臨床判断を高めるスキル～ ・看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ・これからのキャリア発達・キャリア開発を考える～人生100年時代を見据えて～ 他 分類3：看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に向けた継続教育 10 コース ・看護補助者の活用促進のための看護管理者研修 ・職場適応を支えるメンタルヘルス～うつ・発達障害の基本的知識とその対応～ ・ヘルシーワークプレイス (健康で安全な職場) について学ぼう! 他 分類4：専門能力開発を支援する教育体制の充実に向けた継続教育 2 コース ・人を育てる臨地実習 ・教育担当者研修 分類5：資格認定教育 4 コース ・訪問看護師養成講習会 ・喀痰吸引指導者養成講習会 ・認定看護管理者教育課程 ファーストレベル教育課程 ー第39回ー ・認定看護管理者教育課程 セカンドレベル教育課程 ー第20回ー	公益目的事業
		2.千葉県看護研究会	(1)第39回千葉県看護研究会 ・開催日 令和3年2月22日(月) ・場 所 東京ベイ幕張ホール	
		3.図書室の管理運営	(1)図書室の管理運営 (2)資料・文献検索・レファレンス	

項目	目的	事業	内 容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
		4.委員会の開催	(1)事業運営のための委員会の開催 ①教育委員会 年6回 ②看護研究委員会 年6回 ③認定看護管理者教育課程運営委員会 年4回	
		小 計		110,333
②看護師等の労働環境等の改善、就業促進等による看護師等の人材確保・定着に関する事業	ワーク・ライフ・バランスを踏まえて、看護職が専門性を発揮し、働き続けられるための環境づくりを推進し、看護職の確保定着を図る。	1.第4次千葉県看護職定着・確保推進計画の普及・推進  2.看護職の労働環境の向上  3.看護進路相談事業  4.中小規模病院看護管理者の研修及び情報交換会  5.ナースセンター事業(千葉県委託)	(1)第4次千葉県看護職定着・確保推進計画の普及・推進、評価 (2)第5次千葉県看護職定着・確保推進計画の策定 (3)看護職定着確保対策協議会の開催 年2回 (4)看護職定着・確保対策事業の普及啓発(再掲) ①「看護ちば」、ホームページ等による広報 ②各種協会事業を通じた普及 (5)労働環境改善委員会の開催 年6回 (6)看護政策推進のための組織強化の推進  (1)ヘルシーワークプレイスの構築・推進事業 ①ヘルシーワークプレイスの広報 ②ヘルシーワークプレイス取組宣言施設の募集 ③ヘルシーワークプレイス推進週間の設置 (2)ワーク・ライフ・バランス相談窓口 ①電話相談(週2日)  (1)出前授業(いのちの大切さ教育) (2)ふれあい看護体験事業 (3)進路相談事業 (4)進路担当教員等への情報提供  (1)中小規模病院看護管理者の研修及び情報交換会 (君津地区ほか1地区)  (1)看護職の定着確保に係る実態調査 (2)看護職の無料職業紹介 (3)届出制度 ①ナースセンターのコンピュータシステム(とどけるん)を利用し、離職届の受理 ②とどけるん登録者へ就業の意思確認とeナースセンターへの登録の働きかけ(一斉メール等) ③合同就職説明会開催情報、研修会、求人情報、施設概要等の提供 ④届出者に対する就業支援 ⑤就業確認 郵送による就業調査  (4)未就業看護職の就業支援 ①看護基礎技術講習会(5回/月程度開催) ②合同就職説明会の開催 ③訪問看護基礎研修会(年5回) ・半日コース 年2回(地区1回、看護会館1回) ・1日コース 年3回(看護会館) ・研修会受講後の再就業支援(再掲) ④看護職への求人情報の提供 ⑤公共職業安定所と連携した相談ブースの設置 (千葉2回/月、松戸2回/月、木更津1回/月、成田1回/月、船橋1回/月) ⑥未就業看護師等再就業支援セミナーの開催 ・2回/年程度(ナースセンター、その他ハローワーク等にて開催) ⑦サテライト事業の推進 ・公共職業安定所と連携した相談ブースの設置(再掲) ・合同就職説明会の開催(再掲) ・再就業支援セミナーの開催(再掲) ⑧就業相談推進アドバイザーによる施設訪問 ⑨プラチナナース研修会 対象：55才以上で定年退職を迎える看護職、定年した未就業看護職 ⑩ナースセンター来所者、ハローワーク相談者への就業確認 ・郵送による調査  (5)ナースセンター運営委員会の開催 年1回	公益目的事業

項目	目的	事業	内容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
		6.医療・看護における安全対策	<p>(6)ナースセンター事業の広報 (7)関係機関との連携（日本看護協会、中央ナースセンター、公共職業安定所等） (8)看護職への相談支援 (9)看護進路相談事業(再掲) (10)ナースセンターの維持管理</p> <p>(1)医療・看護に関する相談支援、情報提供 ・医療事故調査に関する情報提供、支援者紹介 (2)医療安全推進週間の推進 ①医療安全大会の開催 ・開催日 令和2年11月15日(日) ・場所 幕張メッセ国際会議場 ②医療安全推進の普及啓発 ・医療安全に関する標語の募集 ・ポスター等による普及啓発 (3)医療安全管理者の育成 ①医療安全管理者養成研修会(再掲) ②医療安全担当者中央交流会(年1回) ③医療安全担当者地区交流会(2年目：市川・千葉・船橋地区 1年目：印旛・山武地区) (4)関係機関等との連携促進 (5)医療安全委員会の開催 年6回</p>	
		小計		70,438
③訪問看護の推進に関する事業	在宅医療の中核を担う訪問看護の質の向上を図り、安定的な供給を図る。	<p>1.訪問看護推進事業 (千葉県委託)</p> <p>2.訪問看護出向支援事業 (千葉県委託)</p> <p>3.訪問看護推進事業 (協会単独事業)</p> <p>4.関係機関との連携</p>	<p>(1)訪問看護推進協議会の開催 (2)訪問看護に関する総合相談の実施 (3)訪問看護の普及啓発事業 ①看看連携・看看ケアマネ連携フォーラム(安房地区、他1ヶ所) ②パンフレットの配布 (4)訪問看護師指導者育成研修会(年2回) (5)訪問看護再就職支援事業 ①訪問看護ステーション見学体験事業 ②訪問看護就職フェア(年1回) (6)訪問看護病院経営者(看護管理者)講習会(年1回)</p> <p>(1)訪問看護ステーション等出向支援事業のコーディネート業務 ①出向元・出向先施設のマッチング及び調整 ②出向看護師等の支援 ③関係団体等に対する事業説明や協力依頼、広報等 ④出向にかかわる書類作成支援</p> <p>(1)訪問看護師人材育成事業 ①「新卒者等訪問看護師育成プログラム」に基づく人材育成支援事業 対象と定員：新卒訪問看護師(1年目1名、2年目1名) チャレンジ訪問看護師(2名) ②「新卒者等訪問看護師育成プログラム」に基づく人材育成支援事業の普及 ③訪問看護師養成講習会の開催(再掲) (2)訪問看護ステーションIT化等推進事業 ・「(旧)千葉県看護協会版訪問看護ソフト」用IT機器貸与の継続管理(1事業所予定)</p> <p>(1)日本看護協会、訪問看護事業協会等との連携 (2)医師会、千葉県訪問看護ステーション協会等との連携</p>	公益目的事業
		小計		17,518

項目	目的	事業	内容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
④ 県民の健康・福祉の増進に関する事業	看護を通して、県民の健康の保持増進に寄与するとともに、看護への理解を深める。	1. 「看護の日」「看護週間」事業	(1) Nursing Now キャンペーンの実施 (2) 「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念事業 in ちば <b>【テーマ】「看護」は世紀を越えて進化する ～看護の力で健康な社会を！～</b> <b>— 地域で輪となりつなげる看護 —</b> 第1部 ・日時 令和2年5月10日(日) ・会場 東京ベイ幕張ホール ・内容 開会式及び記念講演等 第2部 ・日時 令和2年5月16日(土) ・会場 12地区部会が決定した場所 ・内容 各種測定、健康に関する各種相談等 (3) 実行委員会の開催(2回)	公益目的事業
		2. 「まちの保健室」事業	(1) 常設型の開催 ① 開催場所 12地区部会の決定会場 (2) イベント型の積極的な開催	
		3. 自殺予防対策	(1) 心の総合相談 ① 専用電話・専用メールによる相談対応 ② 自殺予防に関する広報 ③ 相談員研修 (2) 人材育成研修の開催(再掲) ① 「看護師のストレスマネジメント ～アンガーマネジメントの視点を取り入れて～」(再掲) ② 「ヘルシーワークプレイス(健康で安全な職場)について学ぼう」(再掲) ③ 「職場適応を支えるメンタルヘルス～うつ・発達障害の基本的知識とその対応～」(再掲)	
		4. 関係機関・他団体への協力	(1) 小児救急電話相談事業への協力 (2) 研修会等への講師紹介や派遣 (3) 行事等への参加	
		5. 災害支援対策事業	(1) 災害支援ネットワークの強化 ① 災害時における関係機関との連携 ・日本看護協会及び北海道府県看護協会 ・千葉県、関係団体等 ② 平常時における連携 ・県内施設、日本看護協会等合同防災訓練 ・九都県市合同防災訓練、市町村等訓練への参加 (2) 災害に備えた支援体制の整備 ① 災害支援ナースの登録促進 ② 災害支援ナースの登録・管理 ③ 災害救護対応マニュアル等の見直し ④ 災害時の災害支援ナースの派遣調整 ⑤ 災害時必要物品の管理 年1回 (3) 災害支援ナースの育成 ① 「災害支援ナースの基礎知識」(再掲) ② 「災害医療と看護(実践編)」(再掲) ③ 災害支援ナース更新・再登録要件講習会 (4) 災害対策委員会(常任委員会)の開催 年6回	
		小計		26,557

項目	目的	事業	内容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
⑤看護に関する調査研究看護業務の開発及び看護制度への提言等に関する事業	看護を取り巻く課題を明確にし、看護職の専門性や看護の発展に寄与する。	1.職能委員会(職能)	(1)保健師職能委員会 年6回程度 (2)助産師職能委員会 年6回程度 (3)看護師職能委員会(領域Ⅰ) 年6回程度 (4)看護師職能委員会(領域Ⅱ) 年6回程度	公益目的事業
		2.職能集会・交流会(職能)	(1)職能集会 ・開催日 令和2年6月23日(火) ・場所 東京ベイ幕張ホール ①保健師職能集会 1回 ②助産師職能集会 1回 ③看護師職能集会(領域Ⅰ) 1回 ④看護師職能集会(領域Ⅱ) 1回 (2)各職能別交流会 ①保健師職能交流会 1回 ②助産師職能交流会(管理者、中堅) 2回 ③看護師職能交流会(領域Ⅰ) 1回 ④看護師職能交流会(領域Ⅱ) 1回 ⑤准看護師交流会 1回	
	1.県行政等への要望・意見具申(看護制度)	(1)県の令和3年度予算等に関する要望書の提出 (2)県議会等の活動への協力依頼等 (3)千葉県医療審議会等への参画		
		2.看護関連施策に対する提言(看護制度)	(1)国・日本看護協会等の要望・提言 (2)資格認定制度の推進 ①専門看護師、認定看護師等の資格取得の促進 ②特定行為に係る看護師の研修制度の普及・資格取得の推進	
		小計		8,086
⑥指定居宅サービス・居宅介護支援に関する事業並びに訪問看護の実施に関する事業	在宅療養者に質の高い訪問看護及び居宅介護支援を提供するとともに、訪問看護の普及啓発等を通して在宅療養者の環境づくりに寄与する。	1.訪問看護事業	(1)質の高い訪問看護の提供 (2)在宅ホスピス・医療ニーズの高い患者家族への支援 (3)24時間、緊急時の訪問看護の提供	公益目的事業
		2.居宅介護支援事業	(1)ケアプランの提供 (2)地域のネットワークづくり (3)利用者の申請代行	
		3.訪問看護の普及	(1)訪問看護研修生の受入れ (2)看護学生実習の受入れ	
		4.地域ニーズに応じた運営体制の整備	(1)在宅ホスピス・医療ニーズの高い患者家族への支援 (2)ちば訪問看護ステーション定例会議 月1回 (3)ちば訪問看護ステーション運営会議 年2回程度	
		5.医療機関・介護サービス事業所及び他職種との連携	(1)医療機関、介護支援専門員等との連携 ①地域連携の会・交流会、ケア担当者会議への参加 (2)利用者確保のための広報活動	
		6.職員の資質の向上	(1)事例検討ミーティング (2)研修会・学会等への参加 (3)地域の行事・交流会、連絡会等への参加(再掲)	
		7.ちば訪問看護ステーション未来づくり計画の推進	(1)看護協会立の訪問看護ステーションとしての公益的・先駆的な取り組み (2)職員が働きやすく、魅力ある職場づくり (3)経営の安定化 (4)看護協会ちば訪問看護ステーション運営評価委員会の開催 年度末1回	
		8.千葉県認知症初期集中支援推進事業(千葉市委託)	(1)認知症に係る各機関との連携・調整 (2)認知症の人及びその家族に対する支援の検討及び提供 (3)認知症の人及びその家族に対する情報収集及び提供 (4)認知症の人及びその家族に対する研修会、交流会等の実施	
		小計		63,667

項目	目的	事業	内 容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
⑦その他、この法人が目的を達成するために必要な事業	県民の健康な生活の実現に貢献するために、地域の特性を考慮した看護の提供及び保健知識の普及を行う。	1.地区部会活動事業	(1)具体的な地区部会活動 ①役員会 年5回程度 ②連絡会 年2回程度 ③研修会 年3回 ④まちの保健室の開催(再掲) ⑤「看護の日」「看護週間」事業(再掲) ⑥その他、地区特有の事業 ・合同就職説明会の開催(再掲) ・医療安全担当者地区交流会の開催(再掲) (2)地区部会長会の開催 年2回	公益目的事業
	情報提供及び広報を行う。	1.情報提供、広報事業	(1)千葉県看護協会の広報 ①機関誌「看護ちば」の発行 年4回 ②ホームページの充実 ③協会パンフレット等の活用 (2)広報委員会の開催 年6回	
		小 計		40,512
	当協会会員に対する相互扶助等の(福利厚生)事業を行う。	1.施設の貸与等事業 2.販売手数料及び出展広告に関する事業 3.会員サービス・福祉の充実等	(1)別館2階会議室②の貸付  (1)看護関連図書を紹介 (2)総会・医療安全大会等 出展広告掲載業者の募集 (3)会員管理受託業務及び代議員選出受託業務(日本看護協会)  (1)会員への相談支援、情報提供 (2)看護職の表彰 (3)慶弔見舞金等の給付 (4)災害時の支援(再掲) (5)会員福利厚生サービスの実施・広報	収益事業等 会計
	小 計		9,811	
県民の健康な生活の実現に貢献するために、公益社団法人としての組織運営を円滑・適正に行う。	1.組織運営に関する会議等の開催  2.会員増の促進  3.公益社団法人に係る届出事務(千葉県知事等)  4.日本看護協会との連携	(1)総会(終了後、職能集会) 年1回 ・開催日 令和2年6月23日(火) ・場 所 東京ベイ幕張ホール (2)理事会 年6回程度 (3)監事監査 年2回(5月、11月) (4)施設等会員代表者会 年2回 (5)地区部会長会 年2回(7月、1月) (6)保助看護職能委員会(再掲) 年6回程度 (7)推薦委員会 年6回程度 (8)常任委員会(再掲) 年6回程度 教育委員会 労働環境改善委員会 医療安全委員会 広報委員会 会員増促進委員会 看護研究委員会 災害対策委員会 (9)千葉県看護連盟との連携 合同研修会  (1)新規・再入会の促進 (2)継続会員への勧奨 (3)千葉県内看護師等学校・養成所卒業生に向けた協会案内 ①看護学生の表彰 ②千葉県内看護師等学校・養成所卒業生に向けた協会案内 (4)会員増促進委員会の開催(年6回)  (1)令和3年度事業計画・収支予算等の提出(3月) (2)令和元年度定期報告(事業報告・決算報告等)(6月) (3)役員等の変更登記及び届出  (1)法人会員会・理事会 (2)職能委員長会 (3)日本看護協会通常総会代議員選出		

項目	目的	事業	内容 (新規事業：太字ゴシック)	予算 (単位：千円)
		5.行政等との連携	(1)千葉県及び市町村主催の会議等への参画 (2)四師会、日本助産師会及び関係団体との連携 (3)関係団体の行事等への協賛・後援	法人会計
		6.役員・職員の資質の向上と福利厚生	(1)研修の実施 ①担当業務に係る外部研修等の受講 ②集合研修の実施 (2)健康診断およびインフルエンザ予防接種 (3)有給休暇の取得促進	
		7.協会資産の管理	(1)看護会館等の管理 ①看護会館の管理 イ 保全等 ロ 環境整備 ②協会物品の管理 イ 物品台帳の整備 ③公用車の管理 (2)情報資産の管理・活用 ①情報資産の管理 イ 情報セキュリティの確保 ロ 個人情報関連業務の標準化 ②情報資産の活用 イ グループウェア、ファイルサーバー等による情報共有	
		小計		41,763
		予算合計		388,685



# 令和2年度 公益社団法人千葉県看護協会収支予算について

## 令和2年度予算の概要

### 1 予算編成方針

平成24年度、新公益社団法人へ移行したことに伴い、予算の編成にあたっては、公益目的事業を重視し、事業計画を円滑かつ効率的に推進するため、限りある収入を効果的に活用することを旨に、重点事業を設定し、また個別事業ごとに事業の内容を精査し、経費を積算したうえで予算を編成したものである。

### 2 予算の作成方式

(1) 法令により新公益法人制度に準拠した「20年会計基準」を適用しており、収支予算は、新基準に基づいた「損益ベース」の収支予算書で構成している。

\*「平成20年会計基準」 国の定める公益社団法人の標準会計方式（平成20年策定、施行）

(2) 収支予算は、大きく「公益目的事業会計」、「収益事業等会計」、「法人会計（全体管理費）」の3つの会計区分として構成される。

(3) 「公益目的事業会計」は、定款第4条（事業）の規定による7つの事業に区分している。

(4) 「収益事業等会計」は、収益事業である「施設の貸与等事業」「販売手数料及び出展広告料に関する事業」と、相互扶助事業である「会員福利厚生等に関する事業」に区分している。

(5) 令和2年度予算は、公益社団法人の法定要件として求められる、次の財務三基準を考慮して作成し、これらの基準を満たしている。

① 公益目的事業に係る収入が事業実施に要する費用を超えないこと

（収支相償の原則）

② 公益目的事業比率が事業費全体の50%以上となるものであること

（50%ルール）

③ 遊休財産額（用途を定めない財産）が保有制限額を超えないこと

### 3 予算の構成等

(1) 概況

① 全体予算の規模は、収益で416,506千円、費用で388,685千円である。

前年度決算との比較において主な点は以下のとおりである。

イ) 研修会参加料 : 71,974千円→74,458千円

・研修参加人員の増 : 2,484千円増

ロ) 看護職員の資質向上研修事業受託料 : 24,737千円→9,800千円

・看護教員養成講習会（隔年実施） : 13,000千円減

・実習指導者講習会（保健師・助産師） : 1,200千円減

・千葉市認知症対応力研修等 : 737千円減

ハ) ナースセンター事業受託料 前年同額 : 36,000千円

② 費用内訳は、次のとおりである。

公益目的事業 337,111千円（86.8%）

収益事業等 9,811千円（2.5%）

法人会計 41,763千円（10.7%）

---

計 388,685千円（100%）

(2) 特記事項

① 受取入会金及び受取年会費については、新規入会数2,800人、会員数29,000人を見込み算定している。

② 受取入会金及び受取年会費については、制度上、原則として50%を公益目的事業会計に計上する必要がある等の理由から、公益目的事業会計へ50%を計上し、残額を法人会計へ計上している。

ただし、実際の執行にあつては、法人会計から公益目的事業の費用も負担することとなる。

（入会金・年会費の50%だけを公益目的事業に用いるということではない。）

③ 県等他団体からの受託・補助等事業については、見込額をもとに予算を計上しているものである。

## 令和2年度 収支予算書（概要）

### 令和2年度 収支予算

		(単位：千円)
経常収益計		416,506
経常費用計		388,685
当期経常増減額		27,821
経常外収益		0
経常外費用		1,433
当期一般正味財産増減額		26,388
正味財産期首残高		833,341
正味財産期末残高		859,729

### 収益の部

(単位：千円)

会計区分	科目	予算額	前年度予算額	増減額	構成比率	
公益目的事業会計	特定資産受取利息	7	6	1	0.00%	
	受取入会金	16,800	15,960	840	4.03%	
	受取年会費	87,000	86,340	660	20.89%	
	研修会参加料	74,458	71,974	2,484	17.88%	
	事業受託料収益	看護職員の資質向上研修事業受託料（千葉県）	9,800	24,737	△ 14,937	2.35%
		ナースセンター事業受託料・管理受託料（千葉県）	36,000	36,000	0	8.64%
		訪問看護推進事業受託料（千葉県）	7,081	7,081	0	1.70%
		看護政策推進のための組織強化事業（日本看護協会）	0	938	△ 938	0.00%
		インターネット配信研修受託料（日本看護協会）	670	560	110	0.16%
		小計	53,551	69,316	△ 15,765	12.86%
	訪問看護・居宅介護・認知症支援事業収益 ※特定資産受取利息及び受取利息を除く	62,981	62,386	595	15.12%	
	その他事業収益	小児救急電話相談	1,167	1,239	△ 72	0.28%
		多職種協働によるかかりつけ医・在宅医療等県民啓発	0	700	△ 700	0.00%
		（受取手数料・雑収益）	330	1,349	△ 1,019	0.08%
		小計	1,497	3,288	△ 1,791	0.36%
	受取補助金等	教育助成金（日本看護協会）	9,200	9,452	△ 252	2.21%
		看護の普及啓発助成金（日本看護協会）	100	100	0	0.02%
		小計	9,300	9,552	△ 252	2.23%
	受取寄附金	1,300	1,300	0	0.31%	
	事業外収益（受取利息・雑収益）	1	1	0	0.00%	
公益目的事業 計		306,895	320,123	△ 13,228	73.69%	
収益事業等会計	施設の貸与等事業	720	720	0	0.17%	
	販売手数料及び出展広告料に関する事業	757	727	30	0.18%	
	日本看護協会受託料（会員管理業務・代議員業務）	4,260	4,180	80	1.02%	
	会員福利厚生等に関する事業	60	260	△ 200	0.01%	
収益事業等 計		5,797	5,887	△ 90	1.38%	
法人会計	特定資産受取利息	1	1	0	0.00%	
	受取入会金	16,800	15,960	840	4.03%	
	受取年会費	87,000	86,340	660	20.88%	
	受取利息及び雑収益	13	12	1	0.00%	
	法人会計 計	103,814	102,313	1,501	24.92%	
経常収益計		416,506	428,323	△ 11,817	100.00%	

費用の部

(単位：千円)

会計区分	定 款 事 業		予算額	前年度予算額	増減額	構成比率		
公 益 目 的 事 業 会 計	①	教育・研修等による看護の質の向上に関する事業	資質向上	生涯教育	83,585	75,734	7,851	21.50%
				千葉県看護研究学会				
				図書室の管理運営				
				委員会の開催				
		資質向上(県)	千葉県受託研修	26,748	33,767	△ 7,019	6.88%	
	小 計			110,333	109,501	832	28.39%	
	②	看護師等の労働環境等の改善、就業促進等により、看護師等の人材確保・定着に関する事業	看護職確保・定着事業	第4次千葉県看護職定着・確保推進計画の普及・推進	15,593	18,829	△ 3,236	4.01%
				看護職の労働環境の向上				
				看護進路相談事業				
			ナースセンター事業(県)	ナースセンター事業(千葉県委託)	42,165	45,403	△ 3,238	10.85%
		医療看護安全	医療・看護における安全対策	12,680	12,079	601	3.26%	
	小 計			70,438	76,311	△ 5,873	18.13%	
	③	訪問看護の推進に関する事業	訪問看護推進	訪問看護師人材育成事業	8,652	8,376	276	2.23%
				訪問看護ステーションIT化等推進事業				
			関係機関との連携					
		訪問看護推進(県)	訪問看護推進事業(千葉県委託)	8,866	8,735	131	2.28%	
	小 計			17,518	17,111	407	4.51%	
	④	県民への健康・福祉の増進に関する事業	保健知識普及啓発	「看護の日」「看護週間」事業	20,198	17,214	2,984	5.20%
				「まちの保健室」事業				
				自殺予防対策				
関係機関・他団体への協力								
災害救護対策			災害支援対策事業	6,359	6,586	△ 227	1.64%	
関係機関・他団体への協力								
小 計			26,557	23,800	2,757	6.83%		
⑤	看護に関する調査研究、看護業務の開発及び看護制度への提言等に関する事業	職能	職能委員会、職能集会・交流会	6,482	6,226	256	1.67%	
		看護制度	県行政等への要望、意見具申	1,604	1,564	40	0.41%	
			看護関連施策に対する提言					
小 計			8,086	7,790	296	2.08%		
⑥	介護保険法に基づく指定居宅サービス・居宅介護支援に関する事業並びに健康保険法に基づく訪問看護に関する事業	訪問看護・居宅介護・認知症支援	訪問看護事業	63,667	59,821	3,846	16.38%	
			居宅介護支援事業					
			認知症支援事業					
			訪問看護の普及					
			地域ニーズに応じた運営体制の整備					
			医療機関・介護サービス事業所及び他職種との連携					
			職員の資質の向上					
			小 計					63,667
⑦	その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	地区部会	地区部会活動事業	15,387	13,598	1,789	3.96%	
		広報	情報提供、広報事業	14,511	13,244	1,267	3.73%	
		公益目的事業共通	各公益目的事業に係る共通経費	10,614	8,009	2,605	2.73%	
		小 計			40,512	34,851	5,661	10.42%
公益目的事業 計			337,111	329,185	7,926	86.73%		
収益事業等会計	施設の貸与等事業	施設の貸与等事業に伴う事業費		410	778	△ 368	0.11%	
	販売手数料及び出展広告料に関する事業	販売手数料及び出展広告料に関する事業に伴う事業費		2,841	2,810	31	0.73%	
	会員福利厚生等に関する事業	会員福利厚生等に関する事業に伴う事業費		6,560	6,093	467	1.69%	
	収益事業等 計			9,811	9,681	130	2.52%	
法人会計	組織運営関係費(総会、理事会、会員増委員会 その他)		41,763	41,556	207	10.73%		
	その他一般管理費							
	法人会計 計			41,763	41,556	207	10.73%	
経常費用計			388,685	380,422	8,263	100.00%		

## 令和 2 年度予算 正味財産増減計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位：千円)

	公益目的 事業会計	収益事業等会計				法人会計	合計
	中計	施設貸与等	販売手数料等	会員福利厚生	中計	中計	
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 特定資産運用益							
特定資産受取利息	7					1	8
② 受取入会金							
受取入会金	16,800					16,800	33,600
③ 受取会費							
正会員受取会費	87,000					87,000	174,000
④ 事業収益							
イ) 研修会参加料							
教育研修会参加料	74,458						74,458
ロ) 事業受託料収入							
看護職員の資質向上研修事業受託料	9,800						9,800
ナースセンター事業受託料	30,160						30,160
ナースセンター会館管理受託料	5,840						5,840
訪問看護推進事業受託料	7,081						7,081
インターネット配信研修業務受託料	670						670
会員登録事務業務受託料			4,105		4,105		4,105
日本看護協会看護政策推進組織強化事業受託料							
日本看護協会代議員選出業務受託料			155		155		155
ハ) 訪問看護・居宅介護支援事業収益							
訪問看護療養費収益	30,415						30,415
基本利用料収益	16,870						16,870
その他の利用料収益（訪看）	1,075						1,075
治験収益	0						
居宅介護支援事業収益	7,800						7,800
認知症支援事業収益	6,142						6,142
雑収益（訪問・居宅）	679						679
二) その他事業収益							
小児救急電話相談事業受託料	1,167						1,167
受取手数料	230	720	757	57	1,534		1,764
雑収益	100						100
⑤ 受取補助金等							
日本看護協会助成金	9,300						9,300
⑥ 受取寄付金							
受取寄付金	1,300						1,300
⑦ 雑収益							
受取利息	1					11	12
雑収益	0			3	3	2	5
経常収益計	306,895	720	5,017	60	5,797	103,814	416,506

## 令和 2 年度予算 正味財産増減計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位：千円)

	公益目的 事業会計	収益事業等会計				法人会計	合計
	中計	施設貸与等	販売手数料等	会員福利厚生	中計	中計	
(2) 経常費用	事業費				事業費	管理費	
役員報酬	22,450	121	116	98	335	629	23,414
給料手当	124,736	70	1,741	612	2,423	12,790	139,949
賞与	15,267	10	242	85	337	1,702	17,306
通勤手当	7,056	6	110	39	155	871	8,082
役員退職慰労引当金繰入額	1,731	12	12	14	38	166	1,935
退職給付費用	3,796	19	19	22	60	276	4,132
法定福利費	24,373	20	343	121	484	2,404	27,261
福利厚生費	860		10	1,532	1,542	117	2,519
旅費交通費	2,577					191	2,768
通信運搬費	9,364	1	9	487	497	3,441	13,302
減価償却費	23,260	81	81	98	260	1,766	25,286
消耗什器備品費	444	2	2	2	6	23	473
消耗品費	7,954	26	26	26	78	304	8,336
修繕費	1,875	2	2	5	9	194	2,078
印刷製本費	13,227					3,107	16,334
燃料費	458						458
光熱水料費	6,167	6	7	19	32	697	6,896
賃借料	10,140	2	2	5	9	2,219	12,368
保険料	1,605	1	1	4	6	139	1,750
諸謝金	22,879					236	23,115
租税公課	8,295	14	100	41	155	1,540	9,990
支払負担金	35					377	412
看護材料購入費	371						371
管理諸費	16,710	17	18	3,350	3,385	1,801	21,896
交際費	0					500	500
図書費	945					308	1,253
会議費	740					1,256	1,996
支払手数料	655					3,800	4,455
委託費	5,146						5,146
広報費	3,247					555	3,802
雑費 (その他の経費)	748					354	1,102
経常費用計	337,111	410	2,841	6,560	9,811	41,763	388,685
当期経常増減額	△ 30,216	310	2,176	△ 6,500	△ 4,014	62,051	27,821
2. 経常外増減の部							0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	279	1	1	1	3	1,151	1,433
当期経常外増減額	△ 279	△ 1	△ 1	△ 1	△ 3	△ 1,151	△ 1,433
他会計振替額	2,000		△ 2,000	6,500	4,500	△ 6,500	0
当期一般正味財産増減額	△ 28,495	309	175	△ 1	483	54,400	26,388
一般正味財産期首残高	187,771	6,267	4,638	200	11,105	634,465	833,341
一般正味財産期末残高	159,276	6,576	4,813	199	11,588	688,865	859,729
II 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	159,276	6,576	4,813	199	11,588	688,865	859,729

# 令和2年度 正味財産増減計算書 公益目的事業会計明細表(1)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

(単位：千円)

	公益目的事業会計 公1						
	1 教育・研修等による 看護の質の向上 に関する事業		2 看護師等の労働環境等の改 善、就業促進等により、看 護師等の人材確保・定着に 関する事業			3 訪問看護の推進に 関する事業	
	資質向上	資質向上(県)	確保定着	ナースセンター	医療安全	訪看推進	訪看推進(県)
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
①特定資産運用益							
特定資産受取利息							
②受取入会金							
受取入会金							
③受取会費							
正会員受取会費							
④事業収益							
イ) 研修会参加料							
教育研修会参加料	73,090	1,368					
ロ) 事業受託料							
看護職員の資質向上研修事業受託料		9,800					
ナースセンター事業受託料				30,160			
ナースセンター会館管理受託料				5,840			
訪問看護推進事業受託料							7,081
インターネット配信研修業務受託料	670						
会員登録事務業務受託料							
日本看護協会看護政策推進組織強化事業受託料							
日本看護協会代議員選出業務受託料							
ハ) 訪問看護・居宅介護支援事業収益							
訪問看護療養費収益							
基本利用料収益							
その他の利用料収益(訪看)							
治験収益							
居宅介護支援事業収益							
認知症支援事業収益							
雑収益(訪問・居宅)							
二) その他事業収益							
小児救急電話相談事業受託料							
受取手数料	230						
雑収益							
⑤受取補助金等							
日本看護協会助成金	9,200						
⑥受取寄附金							
受取寄附金							
⑦雑収益							
受取利息							
雑収益							
経常収益計	83,190	11,168	0	36,000	0	0	7,081

(単位：千円)

公益目的事業会計 公1											
4 県民への健康・福祉の増進に関する事業		5 看護に関する調査研究、看護業務の開発及び看護制度への提言等に関する事業		7 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業			小計	6 介護保険法に基づく指定居宅サービス・居宅介護支援に関する事業並びに健康保険法に基づく訪問看護に関する事業（訪問看護ステーション）		小計	中計
保健知識	災害救護	職能	看護制度	地区部会	広報	共通		訪問看護	居宅介護		
						6	6	1		1	7
						16,800	16,800				16,800
						87,000	87,000				87,000
							74,458				74,458
							9,800				9,800
							30,160				30,160
							5,840				5,840
							7,081				7,081
							670				670
								30,415		30,415	30,415
								16,870		16,870	16,870
								1,075		1,075	1,075
									7,800	7,800	7,800
								6,142		6,142	6,142
								679		679	679
1,167							1,167				1,167
							230				230
	100						100				100
100							9,300				9,300
						1,300	1,300				1,300
						1	1				1
1,267	100	0	0	0	0	105,107	243,913	55,182	7,800	62,982	306,895

# 令和2年度 正味財産増減計算書 公益目的事業会計明細表(2)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

(単位：千円)

	公益目的事業会計 公1						
	1 教育・研修等による 看護の質の向上 に関する事業		2 看護師等の労働環境等の改 善、就業促進等により、看 護師等の人材確保・定着に 関する事業			3 訪問看護の推進に 関する事業	
	資質向上	資質向上(県)	確保定着	ナースセンター	医療安全	訪看推進	訪看推進(県)
(2) 経常費用							
役員報酬	3,932	1,284	1,624	2,382	1,738	2,419	1,211
給料手当	19,661	9,388	7,844	17,721	4,179	2,829	2,584
賞与	2,716	1,380	891	2,347	876	684	567
通勤手当	1,305	686	629	1,192	365	259	203
役員退職慰労引当金繰入額	418	259	168	255	89	83	60
退職給付費用	693	430	279	424	148	138	99
法定福利費	3,757	2,101	1,636	3,717	868	808	606
福利厚生費	104	58	45	133	34	22	17
旅費交通費	45		13	288	59	78	286
通信運搬費	1,152	254	179	1,581	323	11	622
減価償却費	8,913	2,443	1,038		614	564	410
消耗什器備品費	68	42	27		15	13	10
消耗品費	1,956	887	382	755	233	198	185
修繕費	565	194	12	130	17	19	13
印刷製本費	3,546	420	169	1,006	557	7	490
燃料費							
光熱水料費	2,031	780	44	2,200	61	67	48
賃借料	1,607	194	151	80	1,405	17	112
保険料	405	139	9		12	13	25
諸謝金	13,900	2,249	245	2,230	696	104	820
租税公課	4,319	1,485	94	20	130	142	103
支払負担金							
看護材料購入費							
管理諸費	6,286	2,066	114	4,174	158	172	125
交際費							
図書費	858			40	10		5
会議費	180	9		10	61		25
支払手数料							
委託費	5,146						
広報費				1,480			240
雑費(その他の経費)	22				32	5	
経常費用計	83,585	26,748	15,593	42,165	12,680	8,652	8,866
評価損益等調整前当期経常増減額	395	15,580	15,593	6,165	12,680	8,652	1,785
基本財産評価損益等							
特定資産評価損益等							
投資有価証券評価損益等							
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	395	15,580	15,593	6,165	12,680	8,652	1,785
2. 経常外増減の部							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	51	32	20	0	11	10	7
当期経常外増減額	51	32	20	0	11	10	7
他会計振替額(収益事業より)							
当期一般正味財産増減額	446	15,612	15,613	6,165	12,691	8,662	1,792
一般正味財産期首残高							
一般正味財産期末残高							
II 指定正味財産増減の部							
受取補助金等							
一般正味財産への振替額							
当期指定正味財産増減額							
指定正味財産期首残高							
指定正味財産期末残高							
III 正味財産期末残高							



(単位：千円)

公益目的事業会計 公1											
4 県民への健康・福祉の増進に関する事業		5 看護に関する調査研究、看護業務の開発及び看護制度への提言等に関する事業		7 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業			小計	6 介護保険法に基づく指定居宅サービス・居宅介護支援に関する事業並びに健康保険法に基づく訪問看護に関する事業（訪問看護ステーション）		小計	中計
保健知識	災害救護	職能	看護制度	地区部会	広報	共通		訪問看護	居宅介護		
2,078	1,135	548	644	1,098	1,171		21,264	831	355	1,186	22,450
5,972	2,392	1,850	354	6,112	2,565		83,451	35,468	5,817	41,285	124,736
1,474	447	225	49	602	252		12,510	2,711	46	2,757	15,267
441	195	316	45	194	252		6,082	826	148	974	7,056
135	50	37	12	60	68		1,694	23	14	37	1,731
225	83	61	19	99	112		2,810	964	22	986	3,796
1,373	485	363	141	606	525		16,986	6,509	878	7,387	24,373
38	13	10	4	17	14		509	315	36	351	860
55	20	106		1,338	20		2,308	239	30	269	2,577
165	120	305		820	2,765	22	8,319	996	49	1,045	9,364
893	348	272	113	423	602	5,775	22,408	517	335	852	23,260
22	8	6	2	10	12	137	372	64	8	72	444
345	205	123	26	371	182	1,793	7,641	301	12	313	7,954
21	12	11	9	13	11	177	1,204	597	74	671	1,875
242	110	908		560	5,050		13,065	144	18	162	13,227
								408	50	458	458
76	45	42	30	47	38	48	5,557	530	80	610	6,167
4,235	11	664	8	1,487	10	12	9,993	128	19	147	10,140
15	10	8	6	9	8	10	669	833	103	936	1,605
386	100	409		780	80		21,999	880		880	22,879
161	95	95	64	100	82	1,351	8,241	48	6	54	8,295
								31	4	35	35
								371		371	371
196	115	108	78	121	580	634	14,927	1,632	151	1,783	16,710
											0
23							936	9		9	945
	40	15		400			740				740
						655	655				655
							5,146				5,146
1,527							3,247				3,247
100	320			120	112		711	33	4	37	748
20,198	6,359	6,482	1,604	15,387	14,511	10,614	273,444	55,408	8,259	63,667	337,111
△18,931	△6,259	△6,482	△1,604	△15,387	△14,511	94,493	△29,531	△226	△459	△685	△30,216
							0				0
							0				0
							0				0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
△18,931	△6,259	△6,482	△1,604	△15,387	△14,511	94,493	△29,531	△226	△459	△685	△30,216
											0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	6	5	2	7	9	103	279	0	0	0	279
△16	△6	△5	△2	△7	△9	△103	△279	0	0	0	△279
						2,000	2,000			0	2,000
△18,947	△6,265	△6,487	△1,606	△15,394	△14,520	96,390	△27,810	△226	△459	△685	△28,495
							199,613			△11,842	187,771
							171,803			△12,527	159,276
											0
											0
							0			0	0
							0			0	0
							171,803			△12,527	159,276

## 令和2年度 資金調達・設備投資の見込みについて

### 1) 資金調達の見込みについて

借入れの予定		<input type="checkbox"/> あ り	<input checked="" type="checkbox"/> な し
事業番号	借入先	金 額	
		円	

### 2) 設備投資の見込みについて

設 備 投 資 の 予 定		<input checked="" type="checkbox"/> あ り	<input type="checkbox"/> な し
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額	資金調達方法 又は取得資金の用途
公1、収1、 収2、他1、 法人	ホームページリニューアル 一式	4,319,700円	自己資金
公1	デスクトップパソコン1台	300,000円	自己資金
公1、収1、 収2、他1、 法人	エプソン大判プリンター	500,000円	自己資金

# 理事会報告

会長 寺口 恵子

## 1. 理事会開催状況

回数	開催年月日	出席者		会場
		理事	監事	
第1回	令和元年 5月16日	18	3	千葉県看護会館 1階会議室
第2回	令和元年 6月27日	18	3	東京ベイ幕張ホール
第3回	令和元年 7月12日	14	2	ホテルポートプラザちば 2階パール
第4回	令和元年10月10日	15	3	千葉県看護会館 1階会議室
第5回	令和元年12月12日	18	3	千葉県看護会館 1階会議室
第6回	令和2年 3月27日	14	3	千葉県看護会館 2階中研修室

## 2. 理事会協議事項

回数	開催月日	協議事項	協議内容
第1回	5月16日	<p>議事</p> <p>第1号議案 平成30年度事業報告について</p> <p>第2号議案 平成30年度決算報告及び監査報告について</p> <p>第3号議案 令和元年度改選役員等候補者について</p> <p>第4号議案 会員以外の者からの監事候補者の選出について</p> <p>第5号議案 令和2年度公益社団法人日本看護協会通常総会 代議員・予備代議員候補者の選出について</p> <p>第6号議案 令和元年度千葉県看護協会会長表彰について</p> <p>第7号議案 令和元年度地区部会役員の選任について</p> <p>第8号議案 令和元年度常任委員会委員の一部交代について</p> <p>第9号議案 千葉県看護協会職員給与規程の一部改正について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> </ul>
第2回	6月27日	<p>議事</p> <p>第1号議案 副会長、専務理事、保健師職能理事、看護師職能理事（領域Ⅱ）の選定について</p> <p>第2号議案 理事会の議長(会長)に事故があった場合の議長について</p> <p>第3号議案 令和元年度業務執行理事の選定及び業務分担について</p> <p>第4号議案 令和元年度役員の業務分担について</p> <p>第5号議案 令和元年度役員の報酬額の決定について</p> <p>第6号議案 令和元年度職能委員の選任について</p> <p>第7号議案 令和元年度地区部会役員の選任について</p> <p>第8号議案 令和元年度常任委員会委員の選任について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> <li>・満場一致で承認</li> </ul>

回数	開催月日	協議事項	協議内容
第3回	7月12日	議事 第1号議案 千葉県知事への要望について 第2号議案 令和元年度地区部会役員の選任について	・満場一致で承認 ・満場一致で承認
第4回	10月10日	議事 第1号議案 千葉県看護協会職員給与規程の一部改正について 第2号議案 令和元年度常任委員会委員の一部交代について 第3号議案 令和元年度地区部会役員の選任について	・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認
第5回	12月12日	議事 第1号議案 令和元年度千葉県看護協会の収支予算の変更(補正予算)について 第2号議案 令和2年度千葉県看護協会の重点項目・重点事業(案)について 第3号議案 令和2年度生涯教育研修計画(案)について 第4号議案 災害見舞金の給付について 第5号議案 公益社団法人千葉県看護協会看護学生表彰規程(案)について	・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認
第6回	3月27日	議事 第1号議案 令和2年度事業計画(案)について 第2号議案 令和2年度予算、資金調達・設備投資の見込み(案)について 第3号議案 令和2年度における千葉県看護協会の運営(案)について 第4号議案 令和2年度定時総会の招集(案)について 第5号議案 茂原本納土地賃貸借契約解除及び建物処分(案)について 第6号議案 千葉県看護協会職員給与規程の一部改正について 第7号議案 名誉会員の推薦について 第8号議案 書面会議の開催について 第9号議案 令和2年度地区部会役員の選任について	・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認 ・満場一致で承認

# 業務運営会議報告

専務理事 井上 恵子

## 1. 業務運営会議の開催

業務運営会議の設置について理事会運営規則第22条では、「柔軟かつ円滑な協会運営に資することを目的として、理事会へ提出する重要又は臨時の必要がある議案を事前に協議又は審議するため、会長、副会長、専務理事及び常任理事によって構成される会議を置くことができる。」とされている。

令和元年度は5回の会議を開催した。

## 2. 開催状況

回数	開催日	協議事項	協議内容
第1回	5月14日	I 議題 1. 平成30年度事業報告について 2. 平成30年度決算報告及び監査報告について 3. 令和元年度改選役員等候補者について 4. 会員以外の者からの監事候補者の選出について 5. 令和2年度公益社団法人日本看護協会通常総会代議員・予備代議員候補者の選出について 6. 令和元年度千葉県看護協会会長表彰について 7. 令和元年度地区部会役員の選任について 8. 令和元年度常任委員会委員の一部交代について 9. 千葉県看護協会職員給与の一部改正について	・平成30年度事業報告、決算・監査報告等について協議した。 ・令和元年度改選役員等候補者について協議した。 ・監事候補者、代議員、地区部会役員の選出について協議した。
第2回	8月21日	I 議題 1. 千葉県知事への要望について 2. 令和元年度地区部会役員の選任について	・理事・監事・施設等会員代表者などから提出された要望を取りまとめ、内容を整理した。
第3回	10月3日	I 議題 1. 千葉県看護協会職員給与の一部改正について 2. 令和元年度常任委員会委員の一部交代について 3. 令和元年度地区部会役員の選任について	・職員給与と災害対策委員会の設置、平成30年度地区部会役員の変更について協議した。
第4回	12月5日	I 議題 1. 令和元年度千葉県看護協会の収支予算の変更(補正予算)について 2. 令和2年度千葉県看護協会の重点項目・重点事業(案)について 3. 令和2年度生涯教育研修計画(案)について	・平成30年度補正予算について協議した。 ・平成31年度重点項目・重点事業について協議した。 ・平成31年度生涯教育研修計画について協議した。
第5回	3月19日	I 議題 1. 令和2年度事業計画(案)について 2. 令和2年度予算、資金調達・設備投資の見込み(案)について 3. 令和2年度における千葉県看護協会の運営(案)について 4. 令和2年度定時総会の招集(案)について 5. 茂原本納土地賃貸借契約解除及び建物処分(案)について 6. 千葉県看護協会職員給与と規程の一部改正について 7. 名誉会員の推薦について 8. 書面会議の開催について 9. 令和2年度地区部会役員の選任について	・平成31年度の事業計画、予算等について協議した。 ・平成31年度定時総会の実施内容について協議した。

# 施設等会員代表者会報告

専務理事 井上 恵子

## 1. 開催状況

回数	開催日	場所	内容
第1回	7月12日	ホテルポート プラザちば 2階ロイヤル	表彰等 看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業 ・看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業修了証交付 役員紹介 議 事 令和元年度千葉県看護協会の事業計画について 講 演 「職場におけるハラスメントの発生事例とその対応」 講師 あおぞらの虹法律事務所 弁護士 南川 麻由子 氏 座長 公益社団法人千葉県看護協会 常任理事 内山 弘子
第2回	2月25日	ホテルポート プラザちば 2階ロイヤル	新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

# 地区部会報告

専務理事 井上 恵子

## 1. 地区部会会長会

回数	開催日	内容
第1回	7月30日	<p>I 議題</p> <ol style="list-style-type: none"><li>令和元年度千葉県看護協会の体制について<ol style="list-style-type: none"><li>千葉県看護協会定款について</li><li>千葉県看護協会の組織・運営について<ol style="list-style-type: none"><li>①組織機構図・組織運営図について</li><li>②役員の職務と担当職域について</li><li>③理事・監事事務分掌について</li><li>④事務局体制について</li></ol></li><li>(3) 事業計画・年間計画について</li></ol></li><li>地区部会活動について<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 地区部会活動の役割等について</li><li>(2) 地区部会活動に関する事務処理等について</li><li>(3) 平成30年度地区部会活動報告について</li><li>(4) 令和元年度地区部会活動年間事業計画について</li></ol></li></ol> <p>II. その他</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 協会からの連絡事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 「病院における看護補助者の確保及び活用に関する実態調査」への協力依頼について</li><li>(2) 中小規模病院看護管理者の研修会及び情報交換会の開催地区について</li></ol></li></ol>
第2回	1月28日	<p>I 議題</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 令和2年度 重点項目・重点事業及び地区部会の目的・役割等について</li><li>2. 令和元年度地区部会活動報告</li><li>3. 地区部会等からの検討事項</li><li>4. 提出書類等について</li><li>5. 医療安全担当者地区交流会について</li><li>6. その他</li></ol>

## 2. 地区部会会計に係る説明会

回数	開催日	内容
第1回	4月24日	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 地区部会事業の概要について</li><li>2. 今年度地区部会に係る会計処理について</li><li>3. その他</li></ol>

---

---

# 職 能 委 員 会 報 告

---

---

## 保 健 師 職 能 委 員 会

委員長 宇 崎 めぐみ

### I 活動目標

1. 保健師が専門性を発揮し、効果的な保健活動が推進できるよう、資質向上を図ると共に、ネットワークの拡大強化による地域包括ケアの充実を図る。
2. 多様化する保健師活動に寄り添うような活動を検討し、多くの保健師とつながる事を目指しつつ、会員数を増やすことで保健師職能の組織力（政策提言力）アップを図る。

### II 活動内容

#### 1. 保健師職能集会

(1) 日 時：令和元年6月27日（木） 14：00～16：00

(2) 会 場：東京ベイ幕張ホール

(3) テーマ：データヘルス時代の健康なまちづくり

(4) ねらい：

- ① 様々なデータを活用することの意義を理解する。
- ② 「見える化」による「課題設定」を行うことで、実践と効果検証が容易になることを理解し、保健活動におけるPDCAサイクルの円滑化に寄与する。
- ③ 人々の行動に影響を及ぼす環境要因にも着目し、個人だけでなく、健康なまちづくりへと視野を広げる。

(5) 参加者数：60名

(6) 内 容：講演 「データヘルス時代の健康なまちづくり」

講師 千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門 教授 近藤克則氏

データヘルスは「医療保険者が健診やレセプト等の健康医療情報を分析した上で行う、加入者の健康状態に即したより効果的・効率的な保健事業」。データヘルス計画の策定ステップは、ステップ1：現状を把握する、ステップ2：健康課題を抽出する、ステップ3：課題に対応した事業を選定し、目標・評価指標を設定する、ステップ4：事業の運営を通じて計画の見直しを図る。

ビッグデータを活用することで、見えていなかった実態や法則、対策が見えてくる。介護予防事業を活用した地域づくりの例として、武豊プロジェクト（介護予防のための地域介入研究）が紹介された。データから、社会参加と要介護認定や認知症の発生との関連を地域の課題として見える化し、住民主体のサロンを立ち上げた。サロンの効果として、参加群で要介護認定率が低いこと、認知症の発症も減ったことがデータで示された。

(7) アンケート結果 参加者数：60名 回答者数：57名 回答率：95%

#### ① 参加者の背景

入会状況：会員22名 非会員35名

職種：保健師56名 看護師0名 その他1名

所属：県13名 市町村31名 企業4名 学校0名 その他9名



年代：20歳代7名 30歳代10名 40歳代18名 50歳代21名 60歳以上1名

② 理解度

理解できた：52名 少し理解できた：5名 あまり理解できなかった：0名

全く理解できなかった：0名

(8) 評価

データを活用した地域づくりの面白さが実感できる内容で、参加者の感想も好評であった。身近なデータ等も活用して、健康なまちづくりに取り組むことを期待する。

著名な講師でテーマもニーズに合っていたためか参加者が多かった。(去年は、休日開催で、休日のためバスの便がなかった。) 非会員の割合が多く、入会につなげる工夫が課題である。

2. 保健師職能交流会

(1) 日 時：令和2年2月12日(水) 14:00～16:30

(2) 会 場：千葉県看護協会

(3) テーマ：台風被害から学んだこと～妊産婦乳児を守る災害対策～

(4) ねらい：① 台風15号(9月)、台風19号(10月)、大雨(10月)では、長期の停電や断水、通信障害、浸水等、県内各地で様々な災害対応が行われた。この災害での学びを共有し、災害対策の見直しや災害時の保健活動の充実を図る。なお、今回は、きめ細かい配慮を要する妊産婦乳児に焦点を当てる。

② 助産師や災害時リエゾン看護師の参加により、お互いの役割を確認し、看護職連携推進の一助とする。

(5) 参加者数：54名

(6) 内 容：報告① 南房総市の活動：南房総市保健福祉部健康支援課 課長補佐兼保健師長 水島二美氏

報告② 富里市の活動：富里市健康福祉部健康増進課 久米恵理子氏

報告③ 助産師の活動：Sora-いんぐ出張専門助産院しまもり 院長 島森孝恵氏

報告④ 災害時小児周産期リエゾンの活動：

千葉大学医学部附属病院NICU・GCU看護師 弓削千尋氏

ワールドカフェ

(7) アンケート結果 参加者数54：名 回答者数：47名 回答率：87%

① 参加者の背景

入会状況：会員18名 非会員29名

職種：保健師38名 助産師3名 看護師6名

所属：県11名 市町村22名 医療機関9名 その他4名 不明1名

経験：5年以下7名 6～10年6名 11～20年14名 21～30年13名 31～40年7名

② これまでの災害時活動の経験

経験あり：22名 経験なし：17名 不明：8名

③ 今後の活動に活かせるか

活かせる：45名 あまり行かせない：2名

(8) 評価

2市から、母子の避難所について、対象や職員の配置・役割分担、運営、物品の準備、課題等、具体的な報告があり、県内でも設置している自治体は少ないため、今後の設置に非常に参考となる報告であった。

また、助産師と災害時小児周産期リエゾンから、それぞれ今回の災害での具体的な活動について報告していただき、災害時の助産師や災害時小児周産期リエゾンとの連携について考えることができた。

報告時間は10分ずつで短かったが、その後、ワールドカフェで情報共有、意見交換を行った。災害以外でもこのような連携の場があるとよい等、好評であった。

それぞれの所属で、助産師との話し合いやリエゾンとの連携体制をマニュアルに記載する等、具体的な動きにつながることを期待する。

### 3. 保健師職能だよりの発行

令和元年冬号

### 4. その他

#### (1) 入会促進

保健師職能集会及び保健師職能交流会は非会員も参加可能として案内し、参加した非会員には、日本看護協会が作成した職種別の加入案内を配布し入会を促した。

#### (2) 千葉県看護協会事業への参加・協力

職能委員長は職能理事として千葉県看護協会の理事会等に参加した。

#### (3) 次年度実施を希望する研修について（職能交流会のアンケートより）

- ・災害
- ・介護保険法

## Ⅲ 令和元年度保健師職能委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	8月9日	1 年間活動計画について	職能集会の評価 看護政策推進のための組織強化事業について、看護協会の魅力の伝え方、研修のテーマ、施設訪問について検討
第2回	10月2日	1. 全国職能委員長会の報告 2. 地域包括ケアシステムに関する現状と看護連携について 3. 保健師職能交流会について	地域包括ケアシステムに関する現状と看護連携についての意見交換 保健師職能交流会テーマの検討
第3回	11月15日	1. 保健師職能交流会について 2. 令和2年度活動計画・予算計画について 3. 実績報告について	保健師職能交流会のテーマ、目的、対象、内容等を検討した。 令和2年度の計画について検討 検討事項の一つであった職場環境の把握を、資質向上に変更することとした。
第4回	2月12日	1. 令和2年度保健師職能集会について 2. 令和元年度活動実績について 3. 保健師職能交流会の打合せ	保健師職能集会のテーマ、講師の検討 令和元年度活動実績（案）について検討 保健師職能交流会のプログラムと進行の確認、参加者のグループ分け等

回数	開催月日	議 題	内 容
第5回	3月2日～ 31日 メールによる検討（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため）	1. 令和2年度保健師職能集会について 2. 年間実績報告・まとめについて	会議が開催できないため、保健師職能集会の開催方法やプログラム等をメールで検討した。 年間実績報告・まとめについて書面をもって委員の了解を得た。

#### IV 令和2年度 活動計画

項 目	内 容	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師が専門性を発揮し、効果的な保健活動が推進できるよう、資質向上を図ると共に、ネットワークの拡大強化による地域包括ケアの充実を図る。</li> <li>多様化する保健師活動に寄り添うような活動を検討し、多くの保健師とつながる事を目指しつつ、会員数を増やすことで保健師職能の組織力（政策提言力）アップを図る。</li> </ul>	
委員会 開催予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師職能委員会 6回</li> <li>メールによる意見交換 2回</li> </ul>	
検討事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>保健師の資質向上について 保健師がその機能を発揮できているか 地域包括ケア体制整備への関り方など</li> <li>看護協会の魅力発信 看護協会HPの活用 職能委員会の活動状況報告 職能だよりの発行など（春・秋）</li> <li>ネットワークの拡大強化 地域包括ケアの充実と保健師の役割 看護職間の連携強化 小児保健学会の座長の決定と参加</li> </ol>	
職能集会	<ol style="list-style-type: none"> <li>活動実績報告</li> <li>活動計画について</li> <li>日本看護協会保健師職能委員会活動報告</li> <li>講演会</li> </ol>	
交流会	<ol style="list-style-type: none"> <li>活動領域を超えた保健師との交流会</li> <li>講演会又はシンポジウム等</li> <li>情報交換、ワールドカフェ</li> </ol>	
三職能 合同委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>三職能共通の課題の検討</li> <li>看護職の連携について</li> </ol>	
その他	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> <li>千葉県看護協会保健師職能委員会活動状況報告</li> <li>日本看護協会総会（全国保健師職能集会）</li> <li>都道府県保健師職能委員長会議 1回</li> <li>地区別保健師職能委員長会議 1回</li> </ol>
	印刷物	<ol style="list-style-type: none"> <li>保健師職能だより</li> <li>職能集会資料</li> </ol>
	その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>千葉県看護協会事業への参加・協力</li> <li>千葉県小児保健協会理事会・総会への参画</li> </ol>

# 助産師職能委員会

委員長 大澤 豊子

## I 活動目標

1. 県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児を目指し、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する。
2. 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する。

## II 活動内容

### 1. 助産師職能集会

(1) 日 時：令和元年6月27日（木） 14：00～16：00

(2) 場 所：東京ベイ幕張ホール

(3) テーマ：子育てに活かせる絵本の力 ～絵本読み聞かせ教育のプロに学ぶ～

(4) 趣 旨：子どものこころを育てることは母子保健における大きな目標の一つです。ネット依存や児童虐待など、こころの問題がクローズアップされ、多職種連携による子育て支援の重要性が叫ばれています。成果につながる活動を続けることは並大抵のことではありません。そこで、今回は、半世紀にわたって子供の成長過程における絵本の重要性を訴え、松戸に図書館を設立する運動、「松戸市おはなしキャラバン」の設立、延べ423万人に対する絵本教育などを実践し、現在も「劇団天童」を主宰する浜島代志子氏を講師に招きました。実際に対話式絵本の読み聞かせ講座の一部を体験させていただいて、絵本の力を学び、助産師の子育て支援に活かしてみませんか。ご多用中とは存じますが、是非、ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

(5) 参加者数：21名

(6) 内 容：講演 「子育てに活かせる絵本の力～絵本読み聞かせ教育のプロに学ぶ～」

講師 劇団天童 主宰えほん教育協会 会長沖縄国際大学 社会人講師 浜島代志子氏

(7) アンケート集計結果 参加者：21名 アンケート回収数：19名 回収率：90.5%

#### ① 参加者の背景

年齢：20歳代0名 30歳代4名 40歳代4名 50歳代8名 60歳以上3名

勤務先：総合病院（産科単科病棟）2名 総合病院（産科混合病棟）7名 総合病院産科外来0名  
産科個人病院診療所0名 助産師養成機関1名 その他8名

職位：師長3名 主任（副師長）1名 副主任0名 スタッフ10名 教員2名 その他2名 無回答1名

助産師の経験年数：1～3年未満0名 3～5年未満1名 5～7年未満2名 7～10年未満0名

10～15年未満2名 15～20年未満3名 20～25年未満2名 25年以上9名

#### ② 講演の満足度

満足：14名 やや満足：4名 やや不満：1名 不満：0名

#### ③ 助産師活動に活かせるか

とても活かせる：8名 やや活かせる：9名 あまり活かせない1名 活かせない：0名 無回答：1名

#### (8) 総括

今年度は初めて総会と職能集会が同日に行われた。参加人数は21名であり、前回平成29年度の29名より少なかった。アンケート結果より、開催時期は全員、総会と同時開催はほとんどが適当と回答しているが、これは実際に参加した方からの回答であるため、職能集会として適当な設定だったとは言い難い。参加者は助産師経験10年未満の参加が少なく、これは総会と同日開催が影響していると考えられる。次年度以降も総会と同日開催のため、職能集会の周知や若い助産師が参加できるような働きかけの方法を検討する必要がある。

講演の満足度は高く、ほとんどが「満足」「やや満足」と回答した。講師は一方向的な講義ではなく双方向性を意識していたこと、また参加者が読み聞かせを体験ができたことなどが満足度につながっていると考えられた。ほとんどの参加者が助産師活動に「とても活かせる」「やや活かせる」と回答しており、講演は参加者のニーズを満たせる内容であったと言える。

## 2. 産科管理者交流会

(1) 日 時：令和元年11月13日（水）10:00～16:00

(2) 場 所：千葉県ナースセンター3階 実習室

(3) テーマ：周産期メンタルヘルス ～産科と精神科との連携～

(4) 趣 旨：周産期のメンタルヘルス支援は、産後ばかりでなく、妊娠中から継続した支援が必要であり、妊娠・出産・子育てに関わる全ての保健医療福祉スタッフの連携が重要だと言われています。しかし、精神科を併設している産科施設は少ないため、妊産婦のメンタルヘルス支援を実施していく上で、多職種との連携に苦慮している現状がうかがわれます。

令和元年度の千葉県看護協会の重点目標でも、「地域包括ケアにおける看護提供体制の構築・推進」が挙げられており、助産師も看護提供体制の構築・推進への知識を得ることが必要となっています。

(5) 内 容：講演「産科と精神科との連携」

講師 医療法人学而会 木村病院 渡邊博幸先生

(6) アンケート集計結果 参加者：35名 アンケート回収数：30名 回収率：86%

### ① 参加者の背景

年 齢：20歳代0名 30歳代4名 40歳代11名 50歳代12名 60歳以上2名 無回答1名

勤務先：総合病院（産科単科病棟）5名 総合病院（産科混合病棟）13名 総合病院産科外来0名  
産科個人病院診療所4名 教育機関7名 その他1名

職 位：師長6名 主任（副師長）8名 副主任1名 スタッフ7名 教員7名 その他1名

職位の経験年数：1年未満4名 1～5年未満7名 6～10年未満4名 1～15年未満2名  
16年以上10名 無回答2名

アドバンス助産師の取得：はい15名 いいえ15名 無回答0名

アドバンス助産師の更新：はい9名 いいえ5名 無回答1名

今後の取得：はい2名 いいえ15名

### ② 講演についての満足度

満足：28名 やや満足：1名 やや不満：0名 不満：0名 無回答：1名

### ③ グループディスカッションの満足度

満足：20名 やや満足：5名 やや不満：0名 不満：0名 無回答：5名

### ④ 助産師活動に活かせるか

とても活かせる：16名 やや活かせる：10名 あまり活かせない：0名 活かせない：0名  
無回答：4名

### ⑤ 他施設の方との交流の場になりましたか

はい：26名 いいえ：0名 どちらでもない：1名 無回答：3名

## (7) 総括

参加人数は35名（内7名職能委員）であり、昨年度とほぼ同等の参加率である。参加者の内訳は総合病院の師長、主任、教育機関の教員が多く、個人病院、診療所からの参加は少なかった。

講演の満足度は高く、83%が「満足」「やや満足」と回答した。講師は周産期メンタルヘルスの重要性と千葉県内における精神科医による周産期メンタル活動状況を伝えてくださり、参加者の周産期メンタルヘルス支援に対する関心の高さが現れていると考える。

グループディスカッションの満足度も高く、71%が「満足」「やや満足」と回答した。十分な時間を確保したことで他施設におけるメンタルヘルスケアの現状と今後の課題についての情報共有や交流が図れた結果と考える。

74%の参加者が助産師活動に「とても活かせる」「やや活かせる」と回答しており、産科管理者交流会は参加者のニーズを満たせる内容であったと言える。

今回の研修において、助産師のモチベーションの向上や保健師職能との合同開催など職能委員への要望を多数頂くことができた。

### 3. 中堅助産師交流会

(1) 日 時：令和2年1月27日（月）13:00～16:30

(2) 場 所：千葉県看護会館 大研修室

(3) テーマ：女性のためのリフレクソロジー ～あなたも体験してみませんか～

(4) 趣 旨：助産師の役割は、すべての年代の女性への支援を行うことがあげられます。精神的な支援のためのコミュニケーション技術の充実の他、補助スキルとしてのタッチングやマッサージ技術の提供は効果的です。妊産褥婦へのマッサージ技術提供は臨床現場で広く実践されています。更に、更年期女性の不定愁訴の軽減、また、老年期においてもマッサージは認知機能低下の場合にも精神的な安定をもたらすことが期待出来ます。

今回、リフレクソロジーの技術を学び、看護の対象者への技術提供だけではなく、自分自身へのセルフマッサージへも活用し、リフレッシュにつなげていただきたいと思います。

(5) 内 容：講義「女性のためのリフレクソロジー ～あなたも体験してみませんか～」

講師：はるのつき院長 都築明美先生、大竹葉月先生

(6) アンケート集計結果 参加者：28名 アンケート回収数：28 回収率：100%

#### ① 参加者の背景

年 齢：20歳代4名 30歳代6名 40歳代9名 50歳代8名 60歳以上1名

勤務先：総合病院（産科単科病棟）4名 総合病院（産科混合病棟）10名 総合病院産科外来0名

産科個人病院診療所0名 教育機関4名 その他1名

職 位：師長0名 主任（副師長）2名 副主任1名 スタッフ19名 教員4名 その他2名

助産師の経験年数：1年未満0名 1～3年1名 4～6年6名 7～10年6名 11～15年1名 16年以上14名

アドバンス助産師の取得：はい13名 いいえ15名

アドバンス助産の更新：はい4名 いいえ2名 検討中2名

今後の取得：はい13名 いいえ7名

#### ② 講演・演習についての満足度

満足：26名 やや満足：2名 やや不満：0名 不満：0名

・実践することで、自分自身が効果を実感できた。

・実際の手技をしっかりと教えていただけた。

・楽しい。こんなに楽しい研修は初めてです。 他

#### ③ 今後の助産師活動に活かせるか

とても活かせる：19名 やや活かせる：9名 あまり活かせない：0名 活かせない：0名

- ・分娩進行や産褥の方に実践していきたい。
- ・保健指導や退院指導で取り入れていきたい。
- ・分娩促進ケアや乳房ケアに活かそう。

#### (7) 総括

参加人数は28名（内7名が職能委員）であった。参加者の内訳は、総合病院・教育機関が占めており個人病院・診療所の参加はみられなかった。開催時期に関しては、1月の最終週の月曜日と連休はなく中堅助産師が参加しやすい時期であった。

講演・演習についての満足度は、「満足」「やや満足」と全員が回答している。講師2名に対し参加者28名であり、デモンストレーション後に丁寧な個別指導を受けられる環境であった。リフレクソロジーを実施・体験することで、自身が楽しく・気持ち良い体験から対象への援助効果を考えることができ、臨床導入にむけて検討できるプログラムとなった。すべての参加者が助産師活動に「とても活かせる」「やや活かせる」と回答しており、講演は参加者のニーズを満たせる内容であったと言える。

#### 4. 「国際助産師の日」企画・開催

(1) 日 時：令和元年5月11日（土）13：00～16：00

(2) 会 場：ユニモちはら台

(3) 内 容：「看護の日」に市原地区部会イベントと合同で国際助産師の日のイベントを開催した。今年も妊婦体験、沐浴体験、赤ちゃん抱っこ体験、胎児モデル展示、進路相談を行った。当日は学生ボランティアも参加し、参加者にいろいろな体験をしてもらい大変好評だった。

#### 5. 助産師だよりの発行

秋号（11月）・春号（4月）の2回発行

#### 6. その他 令和元年度千葉県看護協会研修計画への参加及び日本看護協会事業への参加・協力

### Ⅲ 令和元年度 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月16日	①新規役員顔合わせ ②国際助産師の日まとめ ③助産師職能集会まとめ ④年間計画決定	①助産師職能委員会の役割、設置運営規程について、委員長より説明。 ②実施報告書の作成。 ③アンケート集計結果の報告、確認。 ④年間計画、交流会、職能集会について、テーマ、日程、プログラム、担当者の決定。
第2回	9月11日	①産科管理者交流会準備 ②中堅助産師交流会準備 ③助産師だより(秋号)作成	①テーマ：周産期メンタルヘルス～産科と精神科との連携～、役割分担を決定。趣旨書、プログラム、アンケートの作成。 ②テーマ：女性のためのリフレクソロジー、講師依頼、プログラムの検討。 ③助産師だより秋号の作成。
第3回	10月31日	①産科管理者交流会最終確認 ②中堅助産師交流会準備	①産科管理者交流会の内容、進行、役割分担について最終確認。 ②中堅助産師交流会の内容、物品準備、役割分担を決定。趣旨書の作成。
第4回	12月11日	①産科管理者交流会評価 ②中間評価 ③令和2年度活動計画 ④中堅助産師交流会準備 ⑤令和2年度助産師職能集会検討	①産科管理者交流会アンケート結果の報告、確認。 ②中間評価について報告書の作成。 ③活動計画の立案。 ④役割分担、物品準備の最終確認。 ⑤テーマ、講師の検討
第5回	1月27日	①中堅助産師交流会最終確認 ②助産師職能集会検討	①参加予定人数、グループ分けの確認。 ②テーマ、講師の確認、趣旨書(案)作成、チラシ作成。
第6回	3月10日	①中堅助産師交流会評価 ②職能集会(6月)企画・打ち合わせ ③国際助産師の日準備・打ち合わせ ④令和元年度まとめ ⑤総会資料作成 ⑥助産師だより(春号)作成	①アンケート結果の報告。 ②趣旨書作成 ③持参物品、役割、協力員、ボランティアの確認。 ④⑤資料作成 ⑥助産師だよりの作成



IV 令和2年度 委員会活動計画

項目	内容	
活動目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する。</li> <li>2. 会員相互の情報交換を図り、県内助産師間の連携を強化する。</li> </ol>	
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師職能委員会 年6回程度</li> <li>2. 三職能合同委員会 年2回</li> </ol>	
検討事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践能力の向上               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 標準化                   <ol style="list-style-type: none"> <li>①助産師ラダーの推進</li> </ol> </li> <li>(2) 質の向上                   <ol style="list-style-type: none"> <li>①助産師ラダーの普及、推進</li> <li>②アドバンス助産師の活動状況調査結果に基づく課題の検討</li> <li>③助産師出向システム構築の支援</li> <li>④教育部への研修に関する提案</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 専門性の発揮               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ラダー推進（初回申請・更新）のための研修の提案・提言</li> <li>(2) 子育て世代を対象にした地域包括ケアの推進</li> <li>(3) 周産期メンタルヘルスに関する情報提供</li> </ol> </li> <li>3. 県内の助産師職能の組織力の強化               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) キャリア及び施設の特性に応じた助産師の情報交換と交流の推進</li> <li>(2) ネットワークの構築</li> <li>(3) 助産師だよりの発行</li> </ol> </li> <li>4. 国際助産師の日の企画・運営</li> </ol>	
交流会等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科管理者交流会の企画・開催</li> <li>2. 新人助産師交流会（新人助産師研修会）への参画</li> <li>3. 中堅助産師交流会の企画・開催</li> </ol>	
職能集会の持ち方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前年度活動報告</li> <li>2. 本年度活動計画</li> <li>3. 講演会またはシンポジウム</li> <li>4. 意見交換</li> </ol>	
三職能合同委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三職能共通課題の検討</li> <li>2. 職能集会の開催</li> <li>3. 職能集会資料の作成</li> </ol>	
その他	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県看護協会助産師職能委員会活動状況報告</li> <li>2. 日本看護協会総会・全国助産師職能委員会活動に協力</li> <li>3. 都道府県職能委員長会議 年2回</li> <li>4. 地区別法人会・都道府県助産師職能委員長会 年1回</li> </ol>
	印刷物等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能集会資料</li> <li>2. 助産師だより</li> </ol>
	その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画</li> <li>2. 千葉県看護協会事業への参加・協力</li> </ol>

# 看護師職能委員会 I (病院領域)

委員長 高井孝子

## I 活動目標

1. 看護師が専門性を発揮しながら、やりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域) が抱える課題に取り組む
2. 看護の質向上を図るために准看護師のスキルアップと進学を支援する
3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I (病院領域) の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する

## II 活動内容

### 1. 看護師職能 I 集会 (病院領域)

(1) 日 時：令和元年6月27日 (木) 14:00~16:00 定時総会と同日開催

(2) 会 場：東京ベイ幕張ホール

(3) テーマ：ヘルシーワークプレイスについて理解を深める

(4) ねらい：

①看護師職能委員会の活動を知り認識を深める。

②看護師がやりがいをもって働き続けるために、看護の現場で起こっていることを再確認し、健康で安全な職場づくりを目指す。

(5) 参加人数：184人

(6) 内 容：

①平成30年度活動報告および令和元年度活動計画

令和元年度は、新4か年活動計画を提示した。社会情勢の変化に対応しながら、各年度の活動課題に取り組み、看護師職能 I・II の合同交流会を4年毎に開催すること報告した。

②講演：テーマ：ヘルシーワークプレイスをつくる～看護師としての生き方・働き方を考える～

講師：宮子 あずさ氏

(7) アンケート結果 参加者数184名 回収数160名 回答率87%

①参加者の背景

所属：病院 149名 診療所 1名 その他 10名 (教員 老健施設 老人ホーム)

職種：看護師150名 准看護師8名 保健師1名 助産師1名

職位：看護局(部)長39名 副看護局(部)長19名 看護師(科)長40名

副看護師長(係長、主任)23名 看護スタッフ30名 その他5名 無回答4名

②看護師職能委員会の活動について知ることができたか

はい：151名 いいえ：4名 無回答：5名

③講演内容について

興味が持てた：153名 興味が持てなかった：2名 無回答：5名

④看護師としての生き方や働き続けることについて考えを深められたか

はい：149名 いいえ：4名 無回答：7名

⑤開催時間について

適当：136名 適当でない：11名 無回答：13名

(8) 総評

定時総会と同日開催だったこともあり、多くの参加者を得ることができ、例年よりも多くの看護職に看護師職能委員会の活動を報告することができた。

講演会は、看護師としての生き方・働き方を、自身の看護経験を通して語られ参加者も興味深く聞くことができた。特に、実際の事例を交えた経験談は、日々の悩みや看護への姿勢に対する実践的なヒントとなり、アンケートの中でも多くの共感の声が寄せられた。

看護職は価値観の異なる他職種と連携し、患者の感情に焦点を当てなければならない仕事である。また、個人ではどうにもならないことや徒労も多く、モチベーションの維持が難しい。展望として、価値観の違いには「こだわりどころが違う人」として感情は抑圧せず、語り合える職場環境や人間関係を作ることや、個人ではどうにもならないことには、結果だけでなく経過にも注目して評価することが大切である。

また、理不尽に向き合う私たちにできることとして、人を許そうとする思考を持ち、肯定的な評価をしてくれる上司や先輩と出会うこと。社会的地位がどうであれ、この仕事でいいのだと開き直り覚悟を持つこと、納得できなくてもやらなければならないことがある時は、問題意識を持ち続けることが自身の良心を守ることになる。看護が直面する理不尽は、生きることの哲学に通ずる。ヘルシーワークプレイスを考えたとき、前をむいてばかりになってしまうが、私たちの精神性を保つためには、時には立ち止まって考えることが大切であるなど、日頃の課題に対する一つの考え方を示唆された内容で高評価を得ることができた。しかし、一方では午前中の総会から引き続きだったために疲労感が強いという声も聞かれたため、今後の検討課題としたい。

## 2. 看護師職能 I 交流会 (病院領域)

- (1) 日 時：令和元年10月20日 (日) 13:00~16:30
- (2) 会 場：千葉県看護会館
- (3) 目 的：健康で安全な職場を理解し、自分らしく働き続けられる職場環境を考える
- (4) ねらい：
  - ①働き続けられる職場環境を整備する必要性を学び活用できる。
  - ②看護師一人ひとりが自分らしく働き続けられる職場環境を考える。
- (5) 講演：テーマ「ヘルシーワークプレイス (健康で安全な職場) を学ぼう」  
講師：日本看護協会常任理事 熊谷 雅美 氏  
※上記について、計画をしていたが甚大な台風被害が発生し中止となった。

## 3. 准看護師交流会

- (1) 日 時：令和2年1月25日 (土) 13:00~16:30
- (2) 場 所：千葉県看護会館
- (3) テーマ：看護師のキャリアアップに向けて
- (4) ねらい：
  - ①日常の看護技術についてスキルアップできる機会とする。
  - ②進学支援に必要な情報を提供し、進学体験や交流の場から進学に対して前向きな考えを持つことができる。
- (5) 参加人数：44名
- (6) 内 容：
  - ①講 演：テーマ「摂食嚥下障害のメカニズムと食べるための支援」  
講師 聖隷佐倉市民病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 馬目 美由紀先生
    - ・5期モデル(先行期→準備期→口腔期→咽頭期→食道期)の摂食嚥下のプロセス、それぞれのメカニズムと観察
    - ・援助のポイント

- ・誤嚥の種類とケアのポイント、高齢者の摂食嚥下機能の特徴と誤嚥性肺炎のタイプ
- ・とろみ剤を使った演習、とろみ剤調整時の注意点
- ・内服方法・工夫
- ・食事介助のポイント(食事姿勢、食べにくい食品、粥の離水防止、嚥下食分類、食具の選択)
- ・口腔ケアの重要性と口腔の観察、について学んだ。

②講 話：「モチベーションを維持し生き生きと働くために」

講師 千葉県看護協会理事 山口規予先生

③進学体験談：セントマーガレット病院 八木ヶ谷美裕樹氏（通信制進学体験者）

千葉県がんセンター 松本里枝氏（全日制進学体験者）

④グループワーク：「現状と課題、進学に対する思い」

⑤進学支援情報・学校説明会：市原看護専門学校（全日制） 梅里妙子先生

東京衛生学園（看護学科通信制） 秋山千草先生

水戸医師会看護専門学校、小見川看護学校、野田看護専門学校の紹介

ハローワークの給付金について情報提供

(7) アンケート結果および評価 参加者数：44名 回収数44名 回収率100%

講演については、全員が参考になった、実践の場で活かせると答えた。聴講だけでなく実習もありわかりやすく、日々の業務に役立つという意見が多かった。講話についても、全員が参考になったと答え、このままでいいのか考えるきっかけになったとの意見があった。

進学体験談、進学支援情報・学校紹介は、参考になったが42名だったが、ならなかったと答えた1名は進学をして看護師国家受験資格を持っている参加者だった。現状や経験した話を聞いて前向きな気持ちになれたとの回答が多く、学校の資料は自分では請求しづらいので良かったとの意見がきかれた。グループワークは、全員が良かったとの回答だった。今自分が置かれている立場や現状の問題、進学に対する不安などを話し合う場となり、山口理事も参加され助言を得ることができた。進学に前向きになれた、やる気になったとの意見が多かっただけでなく、他施設の方と情報交換ができた、他の准看護師に話を聞く機会がないので楽しかったという意見が多かった。

全体を通して、アンケート結果では肯定的な意見がほとんどだった。今回は交流の時間を増やしたが、現状や気持ちの共有ができ、仕事や進学への意欲が高まるきっかけになったと思われる。

#### 4. 平成30年度准看護師交流会参加者追跡アンケート調査

交流会参加者37名 回収数26名 回収率70.3%

(1) アンケート結果

①看護師への進学について考えましたか

はい：20名 いいえ：6名

②質問1ではいと答えた方現在の状況を教えてください。

すでに進学している：1名 受験をした：2名 進学のための準備をしている：1名

進学を考えたが保留になっている：16名

理由（複数回答）：経済的理由：9名 年齢：2名 仕事上の問題：2名 勉強面での不安：1名

家庭の事情：6名 通信制の受験資格に達していない：1名

③質問1でいいと答えた方 その理由（複数回答）：

経済的理由：2名 年齢：3名 時間がない：1名 仕事が大変：1名 家庭と両立できない：1名

進学を考えてない 1名

④今後もこのような機会があれば、進学する准看護師は増えると思いますか

はい：21名　いいえ：4名　どちらともいえない：1名

- ・「はい」の理由（複数回答）では、「刺激や考える機会になる」が6名、「進学のイメージができる」が2名であり、進学を考えるよいきっかけとして捉える意見が多かった。また、「学校の情報を得ることができる」が8名で、具体的に考える人には情報発信の役割を果たしている。さらに「同じような考えの仲間に出会え、話し合える」が6名で、交流の場の情報共有に意義を見出している人が多いこともわかった。
- ・「いいえ」の理由では、「金銭的な問題」が2名、「年齢がいつからだと行きづらい」が1名で、やはり経済的と年齢での理由が挙げられた。その他、「行きたい気持ちの問題」との答えもあった。
- ・「どちらともいえない」と回答した1名は、「人員不足の中働いていると時間と経済的に難しい」と職場環境の理由だった。

⑤進学に際しての意見

経済的・年齢的理由で難しいと考えている人が多く、「もう少し生活に対しての補助金などがあつたらいい」「進学の方法がもっと色々あると良い」などの意見があつた。「進学することで職場に迷惑をかけてしまう」「仕事場の協力と理解がない」と職場のことを考え、行動に移せない人もいた。しかし同時に、スキルアップや給料面で進学した方がいいと思っているという意見も多かつた。

その他、「行く気がない」「どうせ進学するなら医療関係以外の別の資格を取りたい」「何十年も働いているのに実習は必要ですか？」という意見も聞かれた。

(2) まとめ

進学について考えた20名のうち、2名が受験をしており、1名はすでに進学していた。また、1名が進学のための準備をしていた。交流会が少なからず進学の動機づけになっていると思われる。進学を考えたが保留になっている16名では、経済面、年齢、生活面での理由が主な理由になっており、一昨年と変化はなかった。できれば進学したいという思いはあつても、様々な理由で一步踏み出せない人に対し、交流会が背中を押す1つのきっかけになると考える。

### Ⅲ 令和元年度 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	5月16日	1. 看護師職能集会準備 総会同日開催初年度で、会場・受付方法等が通年と異なるため確認を徹底しておく	・職能集會うちあわせ プログラム最終確認 役割、受付方法・集合時間等の最終確認 総会当日のスケジュール確認
第2回	8月2日	第2回より新委員に交代 1. 令和元年度職能委員会活動計画及び運営について 2. 職能集会開催結果報告 2. 役割分担 3. 開催予定 4. その他	・職能委員会設置の役割や年間の活動等について説明 ・令和元年度活動計画案作成 ・委員の役割・担当 ・看護師交流会の企画検討 職能Ⅱとの合同開催計画検討 ・准看護師交流会の企画検討
第3回	9月27日	1. 職能委員会メンバー変更について 2. 都道府県看護師職能委員会報告 3. 看護師交流会開催準備 3. 准看護師交流会の企画検討	・メンバー1人離脱（県外転勤のため） ・日本看護協会職能委員会における活動テーマや課題について報告 ・看護師交流会のスケジュール確認 9月9日の台風被害によりインフォメーション遅れ、参加人数減少への対応検討 ・准看護師交流会の企画検討 講演テーマおよび講師、依頼する学校の選抜などの検討
第4回	11月5日	1. 今後の進め方について確認 2. 准看護師交流会の準備 3. 令和2年度看護師職能集会の企画検討	台風による甚大な被害のため中止 ・交流会が中止になった事で、急遽予定外の日程で会議を開催し以降の委員会予定について確認 ・准看護師交流会の講師、講話者、体験者、参加学校について決定 ・次年度看護師職能集会のテーマ、講師について検討
第5回	1月25日	1. 准看護師交流会最終打ち合わせ 2. 平成31年度職能委員会活動検討	・最終スケジュール確認 ・職能集会の開催が定期総会と同日開催の予定で企画検討 ・講演のテーマ、講師の絞り込み
第6回	3月23日	1. 准看護師交流会の反省 2. 准看護師交流会追跡調査の結果 3. 年間まとめ 4. 令和2年度活動計画決定	会議開催ができないため、年間の評価・まとめについて、書面をもって委員の了解を得た

#### IV 令和2年度 活動計画

項目	内容	
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師が専門性を発揮しながら、やりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I（病院領域）が抱える課題に取り組む</li> <li>2. 看護の質向上を図るために、准看護師のスキルアップと進学を支援する</li> <li>3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I（病院領域）の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する</li> </ol>	
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師職能 I（病院領域）委員会 年6回</li> <li>2. 看護師職能 I・II 合同委員会 必要時</li> <li>3. 三職能合同委員会 必要時</li> </ol>	
検討事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能委員会（病院領域）の活動目標・計画を踏まえ、看護の役割を明確にし、活動の成果を可視化していく。</li> <li>2. 中期計画に基づいて交流会を企画し、多様化する看護師の役割の明確化とやりがいを持って働き続けられる職場づくりを目指す。  <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度 ヘルシーワークプレイスについて理解を深める</li> <li>令和2年度 災害時における医療体制の充実を図る</li> <li>令和3年度 多職種と協働し在宅移行支援を推進する</li> <li>令和4年度 看護師職能 I・II 合同開催</li> </ul> </li> <li>3. 准看護師交流会実施後の進学状況に関する追跡調査を継続し、その結果を踏まえた交流会を開催し、准看護師のスキルアップと進学を支援する。</li> </ol>	
職能集会交流会等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師職能 I（病院領域）集会 総会同日開催 令和2年6月</li> <li>2. 看護師交流会 年1回 令和2年10月</li> <li>3. 第26回准看護師交流会 令和3年1月頃</li> </ol>	
その他	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県看護協会看護師職能 I（病院領域）活動状況報告</li> <li>2. 日本看護協会看護師職能 I（病院領域）の調査活動に協力</li> <li>3. 都道府県看護師職能委員会 1回/年</li> <li>4. 地区別法人会・看護師職能委員長会 1回/年</li> </ol>
	印刷物等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能集会資料</li> <li>2. 交流会資料</li> <li>3. 職能委員会ホームページの記事掲載および更新</li> <li>4. その他</li> </ol>
	その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県看護協会事業への参加・協力</li> <li>2. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画</li> </ol>

# 看護師職能委員会Ⅱ（介護及び福祉関係施設・在宅等領域）

委員長 許 斐 玲 子

## I 活動目標

1. 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え、看護協会長への助言を行う。

## II 活動内容

1. 看護師職能Ⅱ集会（介護及び福祉関係施設・在宅等領域）

(1) 日 時：令和元年6月27日（木） 13：30～16：30

(2) 会 場：東京ベイ幕張ホール

(3) テーマ：IT社会と看護 ～AIナースングって何？～

(4) ねらい：

- ①職能集会を通して領域Ⅱの活動を知る。
- ②領域Ⅱの看護職にとって先験的な知見や技術の揭示を行い、必要な知識の習得を目指す。
- ③看護を取り巻く環境の変化を理解し、ロボットやAI技術による看護の効率化を考える事ができる

(5) 参加人数：74名

(6) 内 容：

- ①平成30年度活動報告及び令和元年度活動計画

平成30年度実施した看護師職能領域Ⅱ集会・交流会について状況を報告。

令和元年度活動計画は、昨今の看護を取り巻く環境の変化の中で、先験的な知見や技術の提示、知識の習得必要度が高い『IT社会と看護』について計画した。交流会についてはアンケートのなかで希望の多かった実例に即した褥瘡対策について計画した。

- ②講演：「見守りコミュニケーションロボットシステムを用いた事例研究」

講師 千葉大学大学院看護研究科訪問看護領域教授 諏訪さゆり氏

千葉大学フロンティア医工学センター教授 愈文偉氏

認知症の看護過程に関するAIへの期待、高齢者ケアへのAIの社会実装における課題と影響、千葉大学での認知症介護イノベーションコンソシアムについて研究の展開を研修した。

(7) アンケート結果 参加者数：74名 回収数：60名 回収率81.1%

- ①参加者の背景

所属施設：特養10名 老健10名 訪看11名 療養型2名 小規模多機能1名 その他26名

職 位：施設管理者7名 部長6名 師長8名 主任6名 スタッフ20名 その他9名 無回答3名

- ②今後取り上げて欲しいテーマ

- ・スキントラブル・多職種との連携について・感染対策・誤嚥性肺炎
- ・透析の管理・排泄ケア

(8) 評価

活動報告／計画については約80%の会員が理解できたと回答しており、領域Ⅱの活動について理解を得られたと思われる。研修では看護職の先駆的な知識を取得するためにIT社会と看護についての理解を深める事ができた。参加人数も74名と多数の参加であったことから、看護の効率化についての興味も大きかったと思われる。今後も看護を取り巻く環境の変化に対応できるよう活動して行く。また、福祉施設で働く看護師は看護師不足や指導者の人材の不足についての意見が多くあった。人材不足の解消とスキルアップ



に向けての活動が必要である。

## 2. 看護師職能Ⅱ交流会

(1) 日 時：令和2年11月28日（木）14：00～16：30

(2) 会 場：千葉県看護会館 大研修室

(3) ねらい：介護・福祉施設、在宅等でおこりやすいスキンケアの対応方法を再認識する。

(4) 講 演：テーマ「事例から学ぶ褥瘡対策～在宅・施設に活かせる工夫・ケア～」

講師 千葉県立海浜病院皮膚・排泄ケア認定看護師 鈴木修子先生

(5) 参加者数：68名（領域Ⅱ67名）

(6) アンケート結果 参加者数68名 回収数68名 回収率100%

### ①参加者の背景

所属施設：診療所1名 特養39名 老健22名 訪看4名 小規模多機能1名 その他1名

職 位：管理者3名 看護師長2名 主任看護師10名 一般53名

経験年数：1～5年4名 6～10年7人 11～15年7人 16年以上36人 無回答14人

### ②内容は理解できましたか？

理解した：38名 ほぼ理解した：27名 無回答：3名

### ③実践で活用できますか？

大いに活用：35名 活用できる：29名 無回答：4名

### ④時間は適切ですか？

適切：65人 無回答：3名

### (7) 評価

褥瘡対策は過去も現在も医療職を悩ませており、多くの医療従事者が日々対応に奮闘している。特に福祉施設、在宅では必要な薬剤や被覆材に限られている。創傷管理において治癒過程を知り、創の状態にあったケアを提供する事が大切である。施設や在宅と病院とは使えるものの種類に違いはあるが、創のみかたと考え方は同じである事を学び具体的な管理方法についての知識を深められたと考える。

### Ⅲ 令和元年度 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新委員の紹介</li> <li>2. 役割分担</li> <li>3. 職能集会のまとめ</li> <li>4. 活動計画について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員の交代があったため紹介と役割分担の決定</li> <li>2. 職能集会のアンケートの結果の確認</li> <li>3. 活動計画の検討</li> </ol>
第2回	9月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交流会について</li> <li>2. 次年度の職能集会について</li> <li>3. 今年度会議計画について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマ、講師、日程の検討</li> <li>2. 次年度の職能集会テーマの検討</li> <li>3. 年間計画の作成</li> </ol>
第3回	10月3日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能交流会について</li> <li>2. 次年度の職能集会研修について</li> <li>3. 広報誌について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能交流会テーマ、日程の決定</li> <li>2. 職能集会テーマの検討</li> <li>3. 広報誌の内容検討</li> </ol>
第4回	11月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交流会内容最終確認</li> <li>2. 職能集会内容検討</li> <li>3. 中間報告まとめ</li> <li>4. 広報誌内容検討</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交流会の日程、スケジュールなどの最終確認</li> <li>2. 令和2年度職能集会の内容を再検討</li> <li>3. 中間報告の検討</li> <li>4. 広報誌のレイアウトを検討</li> </ol>
第5回	12月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報誌のレイアウトを検討</li> <li>2. 交流会のアンケート結果の確認</li> <li>3. 次年度職能集会講演内容検討</li> <li>4. 次回の交流会の内容を検討</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報誌の表紙、レイアウト決定</li> <li>2. 交流会のアンケート内容の評価</li> <li>3. 職能集会講師の決定</li> <li>4. 交流会の内容検討、講師決定</li> </ol>
第6回	3月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次年度職能集会の内容検討</li> <li>2. 広報誌の内容確認</li> <li>3. 最終まとめ</li> <li>4. 次年度交流会について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画書、プログラム作成</li> <li>2. 広報誌の内容確認</li> <li>3. 最終まとめの作成</li> <li>4. 次年度交流会のテーマを決定</li> </ol>

#### IV 令和2年度 活動計画

項 目	内 容	
活 動 目 的	1. 領域Ⅱの看護師が置かれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取りあげながら解決に向けた方策を検討する。	
委員会開催予定	1. 看護師職能委員会Ⅱ 6回程度開催	
検 討 事 項	1. 令和3年度の定時総会後の職能集会（領域Ⅱ）の企画について検討する。 2. 令和2年度の交流会の開催について検討する。	
職能集会・交流会等	1. 看護師職能Ⅱ集会 定時総会后6月に開催 2. 看護師領域Ⅱ交流会 1回	
そ の 他	日本看護協会	1. 千葉県看護協会看護師職能領域Ⅱ活動状況報告 2. 日本看護協会看護職能委員会領域Ⅱの活動へ協力 3. 都道府県看護師職能委員会 1回/年 4. 地区別法人会・看護師職能委員長会 1回/年
	印刷物等	1. 職能集会資料 2. 交流資料 3. 広報誌第1号発行 4. その他
	そ の 他	1. 千葉県看護協会事業への参加・協力 2. 千葉県小児保険協会理事会・総会への参画

## 常任委員会及び推薦委員会報告

### 教 育 委 員 会

委員長 田 口 真由美

所掌事務	看護職の資質向上に関すること
諮問事項	<p>超高齢社会を見据えた生涯教育の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い看護を提供するための人材育成</li> <li>・会員にとって魅力ある研修の検討</li> </ul>
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習計画についての意見が求められている。現状の研修プログラムが会員の研修ニーズや社会情勢を反映した内容になっているのか、受講率を併せ検討し提言を行う。</li> <li>2. 人材育成に直結する、看護管理者研修サードレベルが県内で実施されていないことから、その必要性や実施の是非についての検討を行う。</li> </ol>
検討内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習計画について</li> <li>2. 認定看護管理者サードレベルについて</li> </ol>
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>「都道府県看護協会における継続教育プログラム」を視聴し、継続教育として何が求められているか委員内で共有をした後、平成30年度生涯教育研修参加状況を実績値（定員、応募者数、決定者数、受講者数）から受講者が研修に求めているものを汲み取った。</li> <li>(1) 施設のニーズが高いものとしてBLS、ACLSがあるが、他施設での開催も複数あるという現状から、看護協会での実施の必要性も含めて、県内の開催状況を把握、情報提供について検討の余地があるのではないかと結論に至った。</li> <li>(2) 時代のトピックス、診療報酬に関連した研修には関心が集まるように思われた。</li> <li>(3) 新人看護職員研修は、受講にはニーズがあるが、施設実習への参加が少なくニーズは少ないように見える。</li> </ul> </li> <li>2. 認定看護管理者サードレベルについて <ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護管理者サードレベルを開校するための材料として、ニーズ調査が必要であるという結論に至った。その背景としては、受講者の学ぶ環境は現在さまざまあり、選択肢がひろがっている。施設側は、期間と費用が課題となっている。ニーズ調査として、認定看護管理者サードレベル開講のためのアンケート項目を抽出した。</li> </ul> </li> </ol>
今後の課題	サードレベルの開講ニーズのアンケート調査を行い、アンケート結果を次年度に繋げる。

## 労働環境改善委員会

委員長 栗原 サキ子

所掌事務	働き続けられる職場環境づくりの推進に関すること
諮問事項	働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略 ・ワーク・ライフ・バランスの推進 ・潜在看護職員等の再就業支援
現状と課題	<p>看護職の離職理由を見ると、職場の人間関係を原因としているものが上位となっている。働き続けられる職場環境づくりを推進するためには、この離職理由への対応も重要な視点と考える。人間関係を原因とする不満には、個々の対人関係の不調もあると思われるが、各種ハラスメントによるもの、協調性を著しく欠くような問題行動を起こす特定の職員に起因するものが少なくないと考え。ハラスメント対応や問題行動を起こす職員対応は、組織として取り組むべきものであるが、現場の管理職が自分だけで抱え込んでしまうケースもあり、そのようなケースでは、適切に解決が図れないだけでなく、問題を一層こじらせてしまうことも少なくない。看護管理者が、前述について、対応知識を持ち、状況に応じた適切な対応をできることが、働き続けられる職場環境づくりに繋がると思われることから、離職理由である「職場の人間関係」に対するアプローチを課題とする。</p> <p>潜在看護師等の再就業支援では、ナースセンター活動が浸透されていない状況もあり、更に支援内容の浸透、利用率を上げていく必要がある。</p>
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が職場環境について組織の考え方や対応の影響等、意識を変えるための支援が必要。</li> <li>・施設に会員が1名しかいないような労務管理に苦勞している小規模施設（119施設）にも支援をできるようにしたい。</li> <li>・60歳以上の方、1年未満で退職してしまう新人、メンタル不調者等の様々な背景を持つ潜在看護職がいる。これらの相談者に合わせた支援が可能なナースセンターの役割を、周知していくことが重要である。</li> </ul>
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略として人を管理する立場の方（看護部長・師長）に正しい労務管理の基本である、①労働時間の管理、②ハラスメント対応、③問題行動を起こす職員対応等を知ってもらう必要がある。地区部会などで学習の機会を提供していくことを提案する。</li> <li>・潜在看護師の再就業支援として、ナースセンターが様々な背景の相談者に合わせた支援が可能であることを強調する広報をしていくことを提案する。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場環境を整えることの重要性を理解してもらう方法の検討。</li> <li>・小規模施設も参加しやすい研修会等の工夫の検討。</li> </ul>

# 医療安全委員会

委員長 久保ひろみ

所掌事務	安全で安心な職場環境づくりの推進に関すること
諮問事項	安全な看護を提供するための組織的な推進戦略 ・組織で取り組む安全文化の醸成 ・チーム医療推進のための行政、関係機関・関係職種との連携
現状と課題	現状 医療安全推進の組織的な取り組み推進への検討 課題 ①チーム医療推進のための多職種連携強化 ②組織で取り組む医療安全文化の醸成 ③医療安全推進のための行政及び関係機関との連携
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度「医療安全管理に関するアンケート」結果をふまえ、再度課題を明確にし、解決に向けた方策を考える。</li> <li>諮問事項である「安全な看護を提供するための組織的戦略」の答申にあたり、行政や各関係職種、関係機関などと医療安全情報を共有していく。</li> <li>医療安全担当者地区交流会に参加し、地域の状況からの課題を抽出し、解決に向けた方策を考える。</li> <li>厚生労働省から示された「医療安全地域連携シート」の活用状況は、協会アンケートに追加調査項目としてお願いし、状況把握していく。また、医療安全大会でも周知の場として活用していく。</li> </ul>
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度「医療安全管理に関するアンケート」結果から、200床未満の施設が医療安全対策加算の未取得が多く占めていた。また、多職種が医療安全管理室に所属して活動しているも、専任の割合が多くなっている。その背景には人員不足の影響も考えられる。全体的に教育的な支援不足と医療安全の意識向上の必要性がある。暴言暴力に対するマニュアルを含む対策がない施設も多いため、その対応について支援する必要がある。 また、新たな情報のみならず、医療安全を基礎から学びたい、事例をとおして学びたいなどの意見もあり。基礎的な知識を学ぶ研修の継続と、事例を共有する場が必要とされている。人員不足や管理者の考え方から、事例共有できない状況が多いと推測された。基本的な知識の向上は地区部会の活動を提案していくとともに、一部地区のみになっているネットワーク活動も推進する必要がある。</li> <li>医療安全担当者中央交流会では、交流の重要性を感じながらも、業務多忙のためか、なかなか交流できない現状があり。専従・専任問わず孤独に悩み活動している現状が多くみられた。また、トップの考え方の違いに不満を感じている担当者もあり、相談する仲間づくりとしてのネットワーク構築とともに、組織の医療安全に対する意識改革も課題になった。</li> <li>医療安全担当者地区交流会視察にて地区別・施設の規模別での課題の違いがあり、看護協会や地域別の研修会内容を支援していく必要がある。</li> <li>厚生労働省から示された「医療安全地域連携シート」の活用状況は、まだ活用開始段階にて、未実施の施設もあり。医療安全大会講演で「医療安全地域連携シート」の説明があり、周知の場となっていた。</li> <li>多職種からの医療安全情報などは、その職種が属していない施設も多く、今後も協会発信で情報提供していく必要がある。</li> </ul>
今後の課題	<p>医療安全対策推進の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各地域でのネットワーク推進支援をする必要あり。医療安全地域連携シートの活用状況とともに、各施設担当者自身も、加算のための連携のみならず、事例を共有できるような場につなげていく意識も必要。</li> <li>②今後も各地区での医療安全活動課題を明らかにし、仲間づくりの場の提供や知識・技術の習得の場として活用していけるよう働きかけていく。</li> <li>③今後も地区別・施設の規模別での課題を収集し、今後の看護協会や地域別の研修会内容を支援していく。</li> </ul>

# 広 報 委 員 会

委員長 伊藤 淳子

所 掌 事 務	協会及び看護の広報に関すること
諮 問 事 項	<p>協会の広報戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員・非会員に対する広報</li> <li>・これから看護職を目指す者への広報</li> <li>・県民に対する広報</li> </ul>
現 状 と 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関誌である「看護ちば」が会員の興味を引くような掲載内容を検討</li> <li>・保健師等の会員増に向けて、会員・非会員に向けての広報活動の検討</li> </ul>
検 討 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間事業計画について</li> <li>2. 看護協会入会促進について</li> <li>3. 「看護ちば」掲載内容・表紙の検討</li> <li>4. 看護職の倫理綱領について事例提案</li> </ol>
検 討 結 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「看護ちば」への掲載内容について提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員増のための特典情報を掲載する</li> <li>・ママさん看護師の働き方改革についての特集</li> <li>・地区部会の紹介（継続中）</li> <li>・倫理綱領の事例は、2020年10月号まで担当決定</li> <li>・認定看護師の特集の継続</li> <li>・災害対策について（特集号にプラスして特集を組めないか―自県なので）</li> <li>・会員以外の人(非会員や県民向け)が「看護ちば」を手にとれるように設置場所を作る</li> <li>・災害に向けた平時の備えについて、被災した施設の看護管理者から実践に基づく示唆を報告してもらう</li> <li>・2020年オリンピックに向けて、感染対策やテロ対策について</li> <li>・各施設の外国人対応に向けたグローバル化への取り組み</li> </ul> </li> <li>2) 保健師・助産師の入会促進など会員増促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の特典情報を具体的に「看護ちば」に掲載する キャリアアップにつながった例など</li> <li>・看護ちばの表紙を利用した広報活動 各施設の写真掲載、看護協会キャラクターの検討、看護師の子どもの絵、掲載内容テーマに合わせた写真掲載</li> <li>・クラブオフの使用状況等と使用方法をアピールする 看護ちば表紙に、クラブオフ利用可能施設写真を掲載</li> <li>・協会会員登録やクラブオフ、キャリアナースなど、ログインを簡素化する</li> </ul> </li> <li>3) 県民への広報について <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護ちばの表紙を利用した広報 県民に協会活動の理解を得るための手法として、会員のみを対象としている表紙掲載写真や絵などの応募資格を、県民も参画できるような要件を緩和する工夫はないか協議。一般公募する提案が出される。</li> </ul> </li> </ol>
今 後 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動を「認定看護師」等の看護職固有活動を啓発する編集内容が多めだが、地域医療を担っている医療機関等施設全体を取り上げてPR する必要があるのではないか。（管理者等、組織を対象とした啓発）</li> <li>・看護ちば以外の広報媒体の検討</li> <li>・リニューアル予定のHPの利活用に関して、リニューアルの効果についての評価方法の検討</li> </ul>

# 会員増促進委員会

委員長 石井 久美子

所掌事務	会員増の促進に関すること
諮問事項	会員を増やすための戦略 ・会員増の具体的方策 ・会員増を考慮した協会事業の進め方
現状と課題	・入会数は増加しているが、准看護師、保健師の入会率が低い ・地域別の入会率の格差と新規入会者数の拡大
検討内容	1. PRのターゲット 2. 地区別入会促進の方法 (1) 入会状況（入会率）の確認 (2) 入会促進に関するアプローチ方法の検討 3. 新規入会者数増加の方策 4. 『看護政策推進のための組織強化事業』に係る入会促進方法等 5. 加入率が低い領域へのアプローチ方法
検討結果	1. PRのターゲット 非会員向けの入会案内を検討し、非会員に対するWEB入会案内のチラシ作成を提案した。 また、手続きのスピーディさや手軽さから、紙媒体での手続きよりWEB入会での手続きを推奨する。 2. 地区別入会促進の方法 平成30年度地区別入会状況をもとにアプローチ方法を検討した。 (1) 入会状況（入会率）の確認、分析 地区別入会率についてまずは50%を目標とする。 ・入会率の低い地区：長夷地区34.0%、東葛地区39.6% ・地区別就業者数、施設数、入会状況の把握が必要である。 (2) 入会促進に関するアプローチ方法の検討 すでに実施している地区もあるが、地区部会長の協力を得て、地区部会研修会等での入会案内の実施を徹底していく。 3. 新規入会者数増加の方策 ・新規採用職員への入会の支援として、施設での申し込み漏れの確認を促すような案内を、職員の入職時期に合わせて送付する。 ・フレッシュセミナーでの入会促進PRを継続して実施する。 ・施設代表者会や地区連絡会での入会案内を定期的実施する。 ・管理者（師長・主任）向けに看護協会の活用方法を周知する機会を活用する（研修や交流会など）。 ・看護職賠償責任保険制度について事例を活用し、具体的補償内容を分かりやすくPRする。 ・看護協会ガイドブックの修正・内容追加案の提案（①Web入会の案内を縮小し、会員特典を充実、②キャリアアップの特集を掲載、③研修を利用し活躍する看護職の紹介メッセージ、④図書室の利用案内、⑤クラブオフ利用者の声の掲載等）。 4. 『看護政策推進のための組織強化事業』に係る入会促進方法等 ・看護政策推進のための組織強化事業の行動計画書の確認。 ・看護協会ガイドブック [千葉県版] への提案（3参照）。 5. 加入率が低い領域へのアプローチ方法 領域Ⅱ（訪問看護と施設）へのアプローチ方法を検討。 ・看護協会に求めている研修内容や参加しやすい日程・形態などの意見聴取（アンケート）の実施。 ・受講しやすい研修体制の検討（会場参加型以外にe-ランニングの導入等）。 ・看護技術研修と研修受け入れ可能な施設とのマッチングの仲介事業。
今後の課題	1. 新規入会数の伸び悩みの原因分析、及び新規入会者獲得の方策の検討 2. 領域Ⅱ（訪問看護や施設）の新規入会者獲得方法の検討 3. 委員会の委員構成（病院、行政、福祉系施設、看護学校）を活用した、実効性のある具体的な提案



# 看護研究委員会

委員長 加納 佳代子

所掌事務	看護研究に関すること
諮問事項	看護研究の在り方を見据えた看護研究の発展戦略 ・看護研究学会の活性化 ・看護環境の改善や新しい看護の開発
現状と課題	千葉県看護研究学会は、「看護活動の取り組みを研究として発表し、成果や課題を各施設間で共有することで看護の資質向上を図ること」を目的としており、研究の登竜門的役割を果たしている。千葉県看護協会の主催する学会としての特徴を生かし、会員の看護研究活動の活性化に向けて、必要なサポートを行っていく必要がある。
検討内容	令和元年度5回の委員会予定であったが、学会開催中止（延期）、新型コロナ感染防止のための会議の中止を受けて、これまでの討議内容を検討するため書面会議で対応し、「平成30～31（令和元）年度 看護研究委員会諮問事項に関する答申」を作成した。 1. 千葉県看護研究学会の活性化について 2. 看護環境の改善や新しい看護の開発
検討結果	1. 看護研究学会の活性化について ①「研究報告」「実践報告」「交流集会」の演題区分を設ける ②大会長を公募することによる企画・実施 ③抄録による登録とプログラムの事前公開 2. 看護環境の改善や新しい看護の開発について ①研究倫理審査委員会の設置 ②楽しんで看護研究が実践できるよう施設を超えた交流・相談の場を設けること
今後の課題	①今後の情勢を踏まえ、また、（公社）日本看護協会の看護学会運営方法の変更等も鑑み、本提案を会員間で広く論議していくためのたたき台としていただきたい。 ②本答申の5つの提案事項について、広く会員や関係者の意見を求めるために、本協会ホームページに公表したり、看護系雑誌等に投稿していくことが望まれる。

(公社) 千葉県看護協会 平成30～31(令和元)年度  
看護研究委員会諮問事項に関する答申

I. はじめに

千葉県看護協会看護研究委員会(以下、本委員会とする)は、これまでの教育委員会の分掌事項の一部を担う委員会として平成10年度に設置され、平成30～31(令和元)年度の2年間にわたり諮問事項(表1)に沿って計10回の討議を重ねてきた。この間、千葉県看護協会主催の看護研究学会の運営に関して随時意見を述べてきたが、ここでは委員会に課された諮問事項の討議結果を答申としてとりまとめたので報告する。

表1. 千葉県看護協会 看護研究委員会 諮問事項

看護研究の在り方を見据えた看護研究の発展戦略 ・看護研究学会の活性化 ・看護環境の改善や新しい看護の開発
--

II. 諮問事項に関する提案

本委員会としての答申の要点は、表2に示した通りである。諮問事項の2点に沿って、5点について提案する。

表2. 答申要点: 看護研究推進のための提案

- |  |
|--|
| 1. 看護研究学会の活性化について<br>(1) 「研究報告」「実践報告」「交流集会」の演題区分を設けること<br>(2) 大会長を公募することによる企画・実施<br>(3) 抄録による登録とプログラムの事前公開<br>2. 看護環境の改善や新しい看護の開発について<br>(1) 研究倫理審査委員会の設置<br>(2) 楽しんで看護研究が実践できるよう施設を超えた交流・相談の場を設けること |
|--|

1. 看護研究学会の活性化について

千葉県看護研究学会(以下、本学会とする)の活性化に向けた方向性については、看護ケアの質の改善や向上に資する実践報告や、発表を通じた会員どうしの交流や情報共有を重視すべきという意見が大勢を占めた。

国内の看護系学会は、日本看護系学会協議会の会員となっている学会だけでも47学会存在し<sup>1)</sup>、医学会と同様に専門分化が進んできていると言える。この流れを前提としながら、本学会をはじめとする都道府県看護協会が主催する学会のあり方を見極めなければならない。

一般的には学会は細分化が進めば進むほど専門特化した領域を扱うことになるが、本学会はその方向性とは異なる特徴をもつ。すなわち、①参加者が千葉県在勤・在学・在住者という地理的特性をもつこと、②千葉県看護協会(以下、本協会とする)という職能団体と一体運営されている点である。学会はその名の通り、本来は学術を追求する場として存在するが、ここに示した本学会の特徴は、学術的な特性とは階層の異なるものである。極端に言えば、本学会の存在目的は、特定分野に関する学問的追求を深めることにはなく、千葉県内の看護職の実践の質を高め(職能団体たる本協会の存在目的とも同調するもの)、またそのための手段の1つとして研究という手法に看護職が慣れ親しむ機会として機能することにあると言える。

このことを前提としながら、今後の本学会の運営にあたって意識されるべきこととして、当委員会として、以下3点の提案をしたい。

(1) 「研究報告」「実践報告」「交流集会」の演題区分を設けること

本学会に参加し得る看護職の母集団を想起した場合、千葉県内の就業看護職員数は58,000人以<sup>2</sup>上のうち、本協会会員28,000人以<sup>3</sup>上と、看護系学会の中では相当大規模な部類に入ると言える（参考：日本看護科学学会の会員数は平成31年3月31日時点で9,517人<sup>4</sup>）。一方で、近年における本学会の参加者は表2のような推移をしており、本協会会員総数に占める割合は低く、また会員数が増加している近年の傾向とも一致しない（表3）。本学会の活性化を含むあり方の検討は重要な課題と言える。

表3. 千葉県看護研究学会参加者数の推移

	平成26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
千葉県看護研究学会 総参加者数 (人)	420	479	442	417	410
千葉県看護協会 会員数 (人)	24,967	25,595	26,143	26,780	28,061
総参加者数 会員数 (%)	1.7%	1.9%	1.7%	1.6%	1.5%

本協会会員の中心は臨床看護の実践者である。そこで、本学会の企画実施にあたっては、実践者の積極的な参加を期待し、千葉県内で日々実践を重ねる看護職が、所属施設を超えて交流・情報交換できる機会となることが望まれる。本学会が、千葉県内の看護職の交流・情報交換の機会となることを通じて活性化していくための具体的方策として、「研究報告」という区分に加えて、「実践報告」や「交流集会」という演題区分を設け、広く実践者による活動報告や交流の機会を増やしていくことを提案する。

本学会の目的は「看護活動の取り組みを研究として発表し、成果や課題を各施設間で共有することで看護の資質、向上を図る」と、「実践報告」を推奨しているにもかかわらず、現状では、演題の区分は設けられておらず、口演とポスターという報告手法の区分しか存在していない。本学会の参加者層の多数は、専ら研究活動に従事しているわけではない実践者であることから、学術的な「新規性」に重点を置かず、実践報告や交流の要素を強めていくことが、参加者のニーズに合致した運用だと考えられる。

「実践報告」については、一般的に学会発表で求められるような学術的な新規性を伴わないようなものであっても、所属施設として新たに取り組んだ内容等について、個人情報保護などの倫理的配慮は行いつつ報告を行うことで、県内の他施設が参考にしてもらうことなどができる。また、「研究発表」として報告する場合には、二重投稿の禁止など、学術活動一般に付随する倫理的基準を満たす必要があるが、「実践報告」のカテゴリであれば、過去に他の学会等で報告した内容について、当該学会発表の内容を引用していることを明記しつつ、その内容をより実践者に分かりやすく報告することなども考えられる。「研究報告」と「実践報告」の2カテゴリを並立することにより、両者の位置付けをより明確に示すことができる。なお、平成30年に行われた岡山県看護協会による報告書<sup>5</sup>においても、都道府県看護協会が主催する学会の今後の方向性として、「研究発表に加えて実践報告と情報・意見交換の場として開催」という意見が複数あげられている。

「交流集会」については、日本看護協会が実施している日本看護学会において、令和元年度より「交流集会（公募型）」というカテゴリが設けられるなど、自身が関心を持つテーマについて参加者自身が当該セッションの企画・応募・実施を行う例が存在する。第38回の本学会は、残念ながらコロナウイルス感染拡大の影響により開催中止となったが、「表彰者による研究こぼれ話」という、交流集会に近い参加型・双方向性重視のセッ

1. 日本看護系学会協議会. <http://www.jana-office.com/member/index.html>(2020.3.1アクセス).
2. 平成30年度千葉県看護の現況. <https://www.pref.chiba.lg.jp/iryuu/toukeidata/kango-genkyou/h30genkyou.html> (2020.3.1アクセス).
3. 千葉県看護協会ホームページ. <https://www.cna.or.jp/>(2020.3.1アクセス).
4. 日本看護科学学会2019年6月定例（定時）社員総会議事録. [https://www.jans.or.jp/modules/about/index.php?content\\_id=33](https://www.jans.or.jp/modules/about/index.php?content_id=33)(2020.3.1アクセス).
5. 岡山県看護協会学会委員会都道府県看護協会調査班. (2018). 全国の都道府県看護協会が主催する学会・研究発表会の開催状況と課題に関する調査報告書. [http://www.nurse.okayama.okayama.jp/publics/download/1/3/652/?file=/files/content\\_type/type014/652/201902210930493945.pdf](http://www.nurse.okayama.okayama.jp/publics/download/1/3/652/?file=/files/content_type/type014/652/201902210930493945.pdf)(2020.3.1アクセス).

ションを試行する予定であった。今後はこういったプログラムを、本委員会メンバーだけで考えるのではなく、広く会員からアイデアを募って企画実施していくことが大切である。また、この「研究こぼれ話」のようなセッションは、後述する研究推進の取り組みとしても有効と考えている。

## (2) 大会長を公募することによる企画・実施

一部の医学会等においては、毎年の学術集会の大会長を公募している例が存在する。実態としては、仮に公募で手あげがなかったとしても、当該学会の役員等が協議して大会長を決定していると想像されるが、広く会員に機会を与えているという点で重要な取り組みである。

本学会は、(本協会として) 会員28,000人以上を擁し、千葉県内全域に施設会員をもつ、千葉県内唯一の学会と言える。この特性を活かせば、毎年の学会運営について、大会長を公募する形で運営していくことも可能と思われる。例えば、大規模な病院の看護管理者が大会長となり当該施設や近隣施設を学会場として開催する形、本協会の地区部会長が大会長となって近隣施設・自治体と協力しながら開催する形、県内の看護系大学が学生の参画も得ながら自施設を活用して開催する形などが想定される。当然移行にあたっては準備期間を必要とするであろうが、準備過程の中で新方式の学会の特徴を活かした「実践報告」「研究報告」「交流集会」を積極的に模索していくことができる。

「大会長公募形式」に運用を変えた場合、大会長は開催にかかる負担を一手に担うことになるが、一方で、どの医療機関も課題と捉えているであろう看護職の人材確保について、当該医療機関あるいは当該地域は、千葉県内に強いアピールをすることが可能となる。看護学生への周知を積極的に行って、例えば学生枠のセッションを設けるなどすれば、新卒看護職の採用においても一歩抜きん出ることができる可能性がある。何より、毎年異なる施設・地域で開催がされることにより、普段足を運ぶ機会がないかもしれない県内各地に会員が集う機会となり、当該地域の名産品の販売なども含めて、地域の活性化にもつながり、創意工夫溢れる企画が期待される。

一方、この大会長公募形式は、本協会にとってもメリットとなり得るだろう。毎年の学会の企画細部まで協会で詰める必要がなくなり、開催にかかる財政的な支援のあり方(財政的な支援を一切せず、大会長が自らファンドレイズをする形とすることも含めて)等についてあらかじめ規約として明文化をしておけば、協会として行わなければいけないことは数年先までの大会長を公募・選定することと、準備過程の一部をサポートするだけになる可能性もある。また、地区部会活動についても地区での学会開催の年は、通常の活動を学会分科会として繰り入れるなど柔軟な運用として工夫することも可能である。

## (3) 抄録による登録とプログラムの事前公開

現行では、本学会のプログラムは、「千葉県看護研究学会集録」として冊子化され、学会当日の直前に参加者に郵送されている。そこに収載される原稿は、一般的な学会の抄録集に比べると分量が多く、1演題につき2～3ページにわたる内容となっている。前述したように、本学会の参加者の多くが研究者ではない実践者であることを考えると、1演題あたりの要旨は1ページ以内として、演題登録に対する心理的な敷居を下げる配慮が有効かもしれない。また、参加者の立場に立つと、演題を含めた学会プログラムの全体像は、できるだけ早い時期に会員全体に周知され、会員がその内容を見ることで参加の意欲が喚起されるよう工夫されていると良い。抄録集を紙媒体から電子媒体に移行させている学会も増えてきていることから、長期的には冊子形式での配布を中止し、電子媒体でインターネット上からいつでも閲覧ができるような形式とすることも考えられる。発表すること自体を目的とするのではなく、県下の看護職が追及したいテーマを発表の機会を活かし「実践報告」「研究報告」「交流集会」を媒介して交流していくことが、「看護環境の改善や新しい看護の開発」につながると考える。

また、演題登録に付随して査読が行われるが、(1)に示した通り「研究報告」「実践報告」「交流集会」の演題区分を設けることで、少なくとも「実践報告」については査読の基準を緩く設定し、学術的な価値もさることながら、看護やケアの質向上に資するものを積極的に演題として採用していくことが求められる。

## 2. 看護環境の改善や新しい看護の開発について

諮問事項の2点目であるが、極めて広範な事項であるため、本委員会の所掌事務である「看護研究に関すること」という前提を置きつつ、本協会やその会員施設において有意義な研究が推進されることを通じて、看護環境の改善や新しい看護の開発につながることを目指すものとし、研究推進のための基盤となり得る取り組みを2点提案する。

### (1) 研究倫理審査委員会の設置

本学会の運営にあたり、あるいは、本協会会員施設等で研究が実施されるにあたり、研究倫理の基準を満たした対応をしていくことが必要不可欠である。公的指針としては、ほとんどの看護研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」<sup>6</sup>に準じた対応が求められるだろう。また、より平易な表現でまとめられた資料としては、日本看護学会が演題登録者に対して示している「研究における倫理的配慮とその記述方法」<sup>7</sup>などが具体的で参考になるだろう。

この「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、「研究者等は、法令、指針等を遵守し、倫理審査委員会の審査及び研究機関の長の許可を受けた研究計画書に従って、適正に研究を実施しなければならない」となっており、研究倫理審査は必須と言える。しかしながら、本協会会員が所属する施設の中には、研究倫理審査委員会が設置されていないところが一定数存在すると想定される。医師の臨床研究等が行われる可能性がある病院施設では設置されたり、病院看護部独自に研究倫理審査委員会を設置している場合が多いだろう。しかし、診療所、介護事業所、訪問看護ステーション、企業などの場合には設置割合が低いと予測される。

これに対し、本協会内に研究倫理審査委員会を設置し、主に研究倫理審査委員会の設置されていない施設に所属する会員からの依頼に基づいて、研究倫理審査を実施する体制を整備することを提案する。既に都道府県看護協会の中には研究倫理審査委員会を設置しているところが散見される。系統的な調査は実施していないものの、都道府県看護協会ホームページ上の資料を閲覧する限りでも、広島県、奈良県、宮城県、青森県、愛知県、兵庫県、山梨県、京都府、三重県、岡山県、高知県、岐阜県、鹿児島県、佐賀県などには研究倫理審査の申請資料が掲載されている。

なお、研究倫理審査委員会の運用については、当初段階では申請件数は多くないと想像されることから、省力化された機動的な体制とすることが期待される。前掲の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」には、迅速審査の基準も設けられており、すべての審査を倫理審査委員会全体で審査しなければいけないわけではない。これらの指針内容を熟知し、他の研究倫理審査委員会での審査経験を有する者の意見を踏まえながら、実効的な審査体制が敷かれるべきである。

また、審査のみならず、「〇〇といった研究をしてみたいがどうやったら良いだろうか」という素朴な実践者の相談に応じられる体制もあわせて必要であり、次項にて言及する。

---

6. 文部科学省, 厚生労働省. (2017.2.28一部改正). 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針.

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyuu/i-kenkyu/index.html>  
(2020.3.1アクセス).

7. 日本看護協会. 第51回日本看護学会実施要綱.

<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/gakkai/pdf/2020/yoko.pdf> (2020.3.1アクセス)

## (2) 楽しんで看護研究が実践できるよう施設を超えた交流・相談の場を設けること

本協会の会員施設等において有意義な研究が推進されるためには、研究に関する意見交換や相談を気軽にすることができる「コミュニティ」の存在が必要と思われる。会員の多くが所属する病院では、輪番のような形で看護研究の担当が決定され、担当期間中に何らかの研究を（半ば義務的に）実施しなければならない場合もあると耳にする。研究は、研究を行う者の自発的かつ利他的（研究成果を患者ほか社会に還元する）な意欲に基づいて行われるのが本来であり、その機運を高めていくことが大切である。

また、会員が所属する一施設だけで研究を実施しても、施設内に研究実施に長けた人材がない場合があるとともに、仮に良い結果が得られたとしても結果の一般化可能性に限界が生じることがある。本学会では例年「看護研究支援」の窓口を設けて、学会開催当日に個別の相談対応を行っているが、単発の対応にとどまるため、実効的な支援に結びついているか不明確である。可能であれば、研究を実施してみたいと思っている会員同士が、施設を超えて継続的に課題意識や関心を共有し、「同じような関心をもつ仲間とともに」「楽しく」「より有意義な研究が実施できるように」支援していけると良い。

そこで、研究に関する雑多な交流・相談を目的としたコミュニティを設置することを提案する。このコミュニティは、「委員会」等の公式性の高い形態よりは、会員による任意の集まりといった形にしておいた方が良くもしいろが、コミュニティの活動方針等を定めるコアメンバー、世話人については、設置当初には固定して基盤を形成するのが良いだろう。コミュニティには、研究に興味があるものの方法論が分からない人と、研究について豊富な経験を有しアドバイザーとなってくれる人<sup>8</sup>の双方が必要となるが、ヒエラルキーのないフラットな関係性を前提とすることが重要である。また、移動距離の問題等を解消するため、実際に集まる機会と同時にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）や遠隔会議等によるオンラインでの交流の機会も設定し、地理的条件による偏りが生じにくくする工夫も大切である。

なお、1. の（1）で述べたプログラム企画「表彰者による研究こぼれ話」は、ここに示したコミュニティ形成のための端緒としても有効な取り組みと言えよう。

## 3. おわりに

本委員会は、2年間にわたり「看護研究の在り方を見据えた看護研究の発展戦略」について論議してきたが、常に「公益社団法人千葉県看護協会が主催する千葉県看護研究学会ならではの学会活動とは何か」に戻って討議を重ねた。その結果、①「研究報告」「実践報告」「交流集会」の演題区分を設けること、②大会長を公募することによる企画・実施、③抄録による登録とプログラムの事前公開 ④研究倫理審査委員会の設置、⑤楽しんで看護研究が実践できるよう施設を超えた交流・相談の場を設けること、以上5点を、「看護研究学会の活性化」「看護環境の改善や新しい看護の開発」にむけて公益社団法人千葉県看護協会会長に諮問事項への答申として提案する。

第38回千葉県看護学会の開催は新型コロナウイルス感染症防止のため延期となり、密集・密接・密着の大規模催事の自粛が呼びかけられている中、全く新しい発想での学会運営方法を検討せざるを得ないかもしれない。今後の情勢を踏まえ、また、(公社)日本看護協会の看護学会運営方法の変更等も鑑み、本提案をご検討いただき、会員間で広く論議していくためのたたき台としていただきたい。

---

8. 千葉県内には多くの看護系大学が所在し、法人内に大学院をもつところも一定数存在することから、県内の大学教員等の協力を得ることなどが想定される。これにより、大学院に進学して研究活動をさらに進めたい人の相談にも対応することができる。

# 災 害 対 策 委 員 会

委員長 鈴木 美智子

所 掌 事 務	災害救護対策に関すること
諮 問 事 項	迅速かつ円滑な災害支援対策に関する推進戦略 1. 行政・他団体との連携強化 2. 災害支援ナースの育成と登録者数の増加
現 状 と 課 題	1. 県内には災害支援を行う団体が17団体あるがそれぞれで活動している。 2. 災害支援ナースの登録数が増えない。
検 討 内 容	【県内で災害救護支援を行う団体の現状分析と連携強化について】 災害発災時には千葉県庁に災害医療本部が設置され関連団体と連携を取り救護活動が行われる。医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、日本赤十字社など医療関係団体は医療救護体制の整備に協力する役割を担う。また災害拠点病院では県の要請のもとDMA Tを派遣し重症者の広域搬送を行う。関連団体が連携を強化するためには指示、統括力をもったコーディネーターの存在と訓練による行動実践力が求められる。 →縦の指示命令系統だけでなく、横の関連団体同士の連携が求められる。 【災害支援ナース登録者数の推進について】 ①災害支援ナース登録数の伸び悩み ②大災害時には登録していないナースの派遣も行われた。
検 討 結 果	1. 医師会と災害支援ナースや潜在看護師などとチームを組んで健康チェックなど、避難所にいる住民の保健活動を行う。 2. 災害支援ナースの活動を報告する機会を作っていただき、広く広報する。
今 後 の 課 題	1. 災害支援ナース登録数の推進 2. 関連団体との連携方法 3. 災害支援ナースの派遣における補償問題

# 推 薦 委 員 会

委員長 高 橋 初 枝

所 掌 事 務	役員等・推薦委員候補者及び職能委員の推薦
諮 問 事 項	改選役員等・委員等の推薦 1. 改選役員、推薦委員、職能委員候補者の推薦 2. 公益社団法人日本看護協会通常総会代議員等候補者の推薦
現 状 と 課 題	1. 令和2年度に改選する新規役員（理事8名、監事1名、保健師職能委員3名、助産師職能委員2名、看護師職能委員〈領域Ⅰ〉3名、〈領域Ⅱ〉2名、推薦委員7名）、継続役員（会長1名、副会長1名、常任理事1名、理事2名、助産師職能委員1名、看護師職能委員〈領域Ⅱ〉1名）について推薦する。 2. 2021年度公益社団法人日本看護協会総会代議員は28名で、代議員・予備代議員候補者合計58名を推薦する。
検 討 内 容	〔検討内容・過程〕 諮問事項について年間計画を立案し、役割分担し進めた。協会の協力を得て、各役割の委員会等の業務内容・開催回数を確認した。人選の際は、地域が偏らないように配慮することを共通認識した。その後、役割分担の進捗状況一覧表を作成し、メールで情報共有しながら人選を行った。
検 討 結 果	令和2年度の改選する理事8名、監事1名、職能委員10名、推薦委員7名の推薦となった。5回の会議とメールでの会議の結果、3月までに人選することができた。しかし、年度末での転勤に対しては急遽対応することが必要となった。
今 後 の 課 題	・看護師職能Ⅱで、訪看・特養・老健等バランスがとれていた方が良いが会員自体が少ない ・転勤や人事異動が、3月まで分からないので最終決定できない ・依頼にあたり、地区・役職が明示されていたほうが、依頼しやすい ・候補者が地区で偏らないように依頼する調整が難しい。 (地区の災害状況等はその地域の役員でないと把握しにくい。) )



---

---

# 特別委員会報告

---

---

## ナースセンター運営委員会

委員長 寺口 恵子

本委員会は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第15条の規定に基づいたナースセンター事業について協議することを目的として設置されている。

ナースセンター運営委員会 1回

議事

1. 平成30年度千葉県ナースセンター事業報告
2. 令和元年度千葉県ナースセンター事業計画
3. 意見交換

ナースセンターへの登録者を増やすことや再就業支援事業の工夫等、今後の事業に関する意見をいただいた。

4. その他

ナースセンター運営委員会作業部会 2回

平成29年度～30年度に取り組んだ看護職確保推進モデル事業の成果を全県に広げて実施する方策や引き続き取り組むべき課題について検討するため、千葉県ナースセンター運営委員会作業部会を設置した。

議事

1. 千葉県ナースセンター運営委員会作業部会の設置について
2. 課題についての意見交換と今後について
  - ・ 中小規模病院の教育体制整備について
  - ・ 看護職養成施設と就業施設との連携強化について
3. ナースセンター事業の今後の展開について
  - ・ 看護学生を対象とした就業支援やナースセンターのPRの方法について
  - ・ 再就業支援のための技術研修のあり方について

次年度のナースセンター運営委員会作業部会において学生向け就職ガイダンス(就職フェア)開催についての提案と検討を行っていくこととした。

# 認定看護管理制度教育課程運営委員会

委員長 伊藤 隆子

本委員会は、千葉県看護協会認定看護管理者教育課程運営規程（以下運営規程）に基づき、教育課程の目的を達成するために企画運営及び修了審査に関する事項の審議機関として設置されている。

令和元年度の委員構成は、教育関係者4名、病院看護管理2名、協会関係者4名の合計10名である。委員会開催は4回で、審議・報告事項は以下のとおりである。

## 【第1回】

- 1 令和元年度第19回認定看護管理者教育課程セカンドレベル（以下セカンドレベル）について（受講者選考・決定）
- 2 令和元年度第19回セカンドレベルの統合演習Ⅱについて
- 3 認定看護管理者教育課程運営委員会細則について
- 4 認定看護管理者教育課程運営細則について
- 5 第38回認定看護管理者教育課程ファーストレベルの進捗状況について
- 6 平成30年度第18回セカンドレベルの看護管理実践報告会（案）について

## 【第2回】

- 1 令和元年度第38回認定看護管理者教育課程ファーストレベル（以下ファーストレベル）修了審査について
- 2 令和2年度カリキュラムの統合演習Ⅰ（案）について
- 3 令和元年度第38回ファーストレベルのアンケート結果について
- 4 認定看護管理者教育課程運営細則の改定について
- 5 令和元年度第38回ファーストレベルの修了証明書授与式の特別講演について

## 【第3回】

- 1 令和元年度第19回セカンドレベルの修了審査について
- 2 令和2年度認定看護管理者教育課程の計画（案）について
- 3 令和元年度第19回セカンドレベルのアンケート結果について
- 4 令和元年度第19回セカンドレベル修了証明書授与式の特別講演について

## 【第4回】 令和2年4月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- 1 令和2年度第39回ファーストレベルの受講決定について
- 2 令和2年度第20回セカンドレベルの募集要項について

## 【実績】

- 1 第38回ファーストレベル開催（6/11～7/11）  
修了者82名（受講者全数）
- 2 第19回セカンドレベル開催（9/3～11/28）  
修了者31名（受講者全数）

---

---

# 日本看護協会関係報告

会長 寺口 恵子

---

---

## I 法人会員会（全国）

### 第1回法人会員会

日時 令和元年5月10日（金）15：00～16：00

場所 JNAホール

- 議題
1. 日本看護連盟との連携について
  2. 県協会訪問看護ステーションにおける「働き方改革法」改正に対応した労務管理について（情報提供）
  3. その他

### 第2回法人会員会

日時 令和元年7月26日（金）13：00～16：00

場所 JNAホール

情報提供 「学校における医療的ケアについて」（文部科学省）

- 議題
1. 学校で医療的ケア児をケアする看護職の実態に関する情報収集結果報告
  2. 第7次医療計画の中間見直しに向けた情報収集
  3. 2019年度地区別法人会プログラム（案）および会議開催日程について
  4. 日本看護連盟との連携について
  5. その他
    - ・兼職届について
    - ・「日本看護サミット2019／訪問看護サミット2019」について

### 第3回法人会員会

日時 令和2年2月21日（金）13：00～16：00

場所 JNAホール

- 議題
1. 日本看護連盟との連携について
  2. ナーシング・ナウについて
    - ・本会の取組について
    - ・グループワーク

## II 令和元年度 地区別法人会員連絡会・法人会員会・都道府県支部役員等研修

日時 令和元年10月7日（月）9：30～16：00

令和元年10月8日（火）13：00～16：00

場所 ホテルメトロポリタン高崎

### 【法人会員連絡会】

- 議題
1. 関東・甲信越地区法人より出された検討議題についての意見交換
    - ・組織強化の取組みについて
    - ・教育委員会の役割について
    - ・認定看護管理者教育ファーストレベル受講者の選考方法について
    - ・ヘルシーワークプレイスの啓発活動について
    - ・ナーシング・ナウに関する事業について
    - ・日本看護協会の理事会・法人会等の報告全般の伝達と評価について
    - ・個人会員の状況と運営上の問題点について
    - ・特別・常任委員会の開催回数、時間について など

### 【法人会員会】

- 議題
1. ナース・プラクティショナー（仮称）制度の枠組み（案）について
  2. 地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築について
  3. 看護職の資格管理体制の構築について
  4. その他
    - ・「日本准看護師推進センター」について（情報提供）

### 【都道府県看護協会支部役員等研修】

- 講演
1. 「地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築について」
  2. 「地域包括ケア推進に向けた多職種連携の仕組みづくり」
  3. 「地域包括ケア推進に向けた看護職間連携の取り組み」

グループワーク

「看護職連携モデル（案）を用いた地域課題の解決」

---

---

# 日本看護協会 職能委員長会 報告

---

---

## I 令和元年度 全国職能委員長会

### 〈全体会〉

日時 令和元年8月21日(水) 10:00~12:00

場所 アルカディア市ヶ谷

報告事項 1. 本会役員の紹介

2. 令和元年度重点政策・重点事業計画について

3. Nursing Nowについて

4. 都道府県看護協会支部役員等研修について

5. 看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイドについて

### 〈保健師職能委員長会〉13:30~16:00

1. 委員長あいさつ・委員紹介

2. 令和元年度重点政策・重点事業及び保健師職能委員会活動方針について

3. 講演「地域共生社会の実現に向けた施策の動向」

4. 講演「地域共生社会の実現に向けた保健師に期待される役割」

5. 地域共生社会の実現に向けた保健師の取り組み事例

・「地域まるごとを目指した保健活動」

・「小学校区単位の地域づくりの実践から」

6. 地区別グループ討議

テーマ「今後の地域活動の展開に向けた保健師の専門性の発揮について」

### 〈助産師職能委員長会〉13:30~16:00

1. 委員長あいさつ・委員紹介

2. 平成30年度助産関連事業報告と令和元年度重点政策・重点事業

3. 平成30年度助産師職能委員会活動と2019年度助産師職能委員会活動方針

4. 講演「助産師職能委員長が各都道府県の実績に沿った助産関連の課題発見をするために」

5. グループ討議

テーマ「各都道府県の実績に沿った助産関連の課題を発見しよう！」

6. 「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)活用ガイド」改訂版パブリックコメント

### 〈看護師職能委員長会 I 病院領域〉13:30~16:00

1. 委員長挨拶・委員挨拶

2. 2019年度看護師職能委員会 I 病院領域の活動方針について

3. 情報提供「誤接続防止コネクタの導入について」

4. グループ討議

テーマ1「地域包括ケアシステムの推進に向けて看護管理者の連携をどのように進めるか」

テーマ2「地域包括ケアにおいて病院の看護師が強化すべき能力と人材育成に関する現状」

### 〈看護師職能委員長会 II 介護・福祉関係施設・在宅等領域〉13:30~16:00

1. 委員長あいさつ

2. 令和元年度重点政策・重点事業について

3. 2019年度看護師職能委員会 II 介護・福祉関係施設・在宅等領域活動方針について

4. 情報提供「平成30年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進事業報告」

・「医療ニーズを有する利用者に対応する介護支援専門員への看護に関連する療養上の相談支援のあり方に関する試行的調査研究事業」

・「訪問看護サービス等における専門性の高い看護師によるサービス提供のあり方に関する試行的調査研究事業」

5. 情報提供「相互接続防止のための経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の切替えについて」

6. 情報提供「事例からみる介護・在宅領域におけるリスク管理」

7. 地区別グループ討議(情報交換)

テーマ:「看護管理者が考えるべきリスク管理、危機管理の具体的な内容、実践している対策について」

## II 令和元年度 地区別職能委員長会（関東・甲信越地区）

日 時 令和元年10月8日（火） 9：00～12：00

場 所 ホテルメトロポリタン高崎

### 〈保健師職能委員長会〉

委員長あいさつ

1. 報告事項
  - ・保健師関連事業報告及び保健師職能委員会報告
2. 討議事項
  - (1) 地域包括ケアシステムの構築・推進及び地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築について
    - ・地域全体を俯瞰し、全世代型の地域包括ケアシステムを推進する「統括保健師」の役割意識の醸成に向けた活動のあり方
    - ・保健師、統括保健師の役割を保健師職能以外の看護職、関係者に分かりやすく伝える方法
  - (2) 地域包括ケアを担う保健師の人材確保について
    - ・あらゆる場における保健師の人材確保と育成の強化策のあり方
  - (3) ネットワーク及び組織強化に関する取組みについて
    - ・組織力のさらなる強化策について（職能団体の役割、政策活動の周知）
  - (4) 産業保健活動に関する取組みについて
    - ・各地の産業保健活動の現状と課題について
  - (5) その他

### 〈助産師職能委員長会〉

委員長あいさつ

1. 報告事項
  - (1) 2019年度日本看護協会重点政策・重点事業（助産関連）事業報告
    - ①出産環境の体制整備
    - ②医療的ケア児への看護提供体制の整備
  - (2) 2019年度日本看護協会重点政策・重点事業以外の助産関連事業報告
2. 討議事項
  - (1) 都道府県看護協会助産師職能委員長の自己紹介と全国助産師職能委員長会のグループ討議後に助産師職能委員長として取り入れたことの共有
  - (2) 各都道府県における助産関連の現状と課題の共有と検討
  - (3) 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）活用ガイドの意見聴取委員長まとめ

### 〈看護師職能委員長会 I 病院領域〉

開会、委員長あいさつ

1. 報告事項
  - (1) 職能委員会報告
  - (2) その他
2. 討議事項
  - (1) 地域包括ケアシステムの推進に向けて看護管理者の連携をどのように進めるか
  - (2) 地域包括ケアを支えることができる病院看護師の育成に関する現状と課題
3. その他
  - (1) 都道府県看護協会看護師職能委員会 I 病院領域の活動について
  - (2) その他

### 〈看護師職能委員長会 II 介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

開会

1. 報告事項
  - (1) 看護師職能委員会 II 報告
2. 協議事項
  - (1) 「組織力強化・看護管理者の連携推進」  
訪問看護、介護施設、診療所等で働く看護職の連携に向けた、各都道府県の取り組み内容や状況を踏まえた効果的な連携方策について
  - (2) 「看護管理者が考えるべき労働者及び療養者のリスク管理」  
看護管理者が考えるべきリスク管理、危機管理において講じる対策のレベル（個人、組織、地域）に応じた具体的な内容、実践している対策について

メ 毛

Handwriting practice lines consisting of a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line, repeated down the page.